

第1節 目的

(防災統括室)

奈良県の地域における大規模な災害に対処し、災害から「人命を守る」ことを最大の目標に、できる限り被害の減少を図るため、防災関係機関が処理すべき事項について計画を定める。また、計画の基本方針等について定めるとともに、この計画に掲げる事項の推進を図る。

第1 計画の目的

この計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号、以下「法」という。）第40条に基づく「奈良県地域防災計画」の水害・土砂災害等編として、奈良県の地域における大規模な災害（地震を除く。地震については「地震編」参照）に対処するため、災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興に関し、県、市町村、指定地方行政機関、自衛隊、指定公共機関、指定地方公共機関、公共的団体・機関（以下「防災関係機関」という。）が処理すべき事務又は業務の大綱を定め、これにより防災活動の総合的かつ計画的な推進を図り、県土及び住民の生命、財産を災害から保護するとともに、災害による被害を軽減し、もって社会秩序の維持と公共の福祉の確保に資することを目的とする。

第2 計画の基本方針

いつでもどこでも起こりうる災害による人的被害、経済被害を軽減し、安全・安心を確保するためには、公助として、防災関係機関がそれぞれ果たすべき役割を的確に実施していく必要がある。併せて、住民一人一人が自発的に行う防災活動である自助や、身近な地域コミュニティや自主防災組織をはじめとした、地区内の居住者等が連携して行う防災活動である共助が必要であり、特に、気候変動の影響等により新たな災害環境となりつつある近年、自助・共助の重要性はより一層高まっている。

この計画は、法第2条の2の基本理念にのっとり、個人や家庭、地域、企業、団体等社会の様々な主体が連携して、「減災」の考え方に基づいて「自分の命は自分で守る」という意識のもと、「自助」・「共助」の取り組みを推進するとともに、県及び市町村による「公助」を適切に組み合わせ、総合的かつ計画的に災害対策の整備及び推進を図り、「災害に日本一強い奈良県を目指す」ものとする。

1 計画の推進に当たっては、下記の諸点を基本とする。

- (1) 災害による死者をなくす・人命を守ることを最大の目標に、できる限り被害を最小化
- (2) 自助・共助を基本とした、住民による主体的な自主防災体制の確立
- (3) 県、市町村、防災関係機関及び住民、企業それぞれの役割と連携
- (4) 防災関係機関相互の協力体制の推進
- (5) ハード対策及びソフト対策を組み合わせた災害対策事業の推進

- (6) 過去の災害の教訓を踏まえた対策の推進
 - (7) 関係法令の遵守
 - (8) 要配慮者等の多様な視点を生かした対策の推進
 - (9) 男女共同参画や性的マイノリティの視点を取り入れた防災体制の確立
- 2 この計画等を参考にして、市町村は法第42条の規定に基づき、それぞれの区域におけるより効果的かつ具体的な防災活動に資するための市町村地域防災計画を作成しなければならない。

第3 計画の推進

各防災関係機関は、必要に応じて具体的な活動計画を作成するなど、この計画に掲げられた事項の推進に努める。

また、各防災関係機関は、分野毎に緊急度の高いものから順に災害対応マニュアルの策定を進めるものとし、マニュアル策定後は、訓練を定期的実施し、マニュアルを検証し、必要に応じ修正を加えてより実践的なマニュアルづくりを目指す。

第4 計画の修正

県は、法第40条の規定に基づき、この計画に毎年検討を加え、必要があると認めるときは、これを修正する。

また、県以外の各防災関係機関は、関係のある事項について計画修正案を県防災会議（事務局：県防災統括室）に提出する。

第5 計画の構成

水害・土砂災害等編は、計画編と資料編から構成する。水害・土砂災害等編の構成は次の4章による。

1 第1章 総則

この計画の基本方針、防災関係機関の役割分担・業務大綱、本県の自然的・社会的条件など、計画の基本となる事項を示す。

2 第2章 災害予防計画

災害発生に備えて、平常時からの教育、訓練等による防災行動力の向上を図る事項及び防災体制、救援・救護体制等の整備や都市基盤の安全性強化を図る計画を示す。

3 第3章 災害応急対策計画

災害発生直後の迅速、的確な初動活動体制に係る事項をはじめ、災害対策本部の設置・運営、防災関係機関による各種の応急対策及び災害救助法の適用等に係る計画を示す。

4 第4章 災害復旧・復興計画

民生安定のための緊急対策のほか、激甚災害の指定等、速やかな災害復旧・復興を図るための計画を示す。

第6 奈良県地域防災活動推進条例との関係

1 目的

この条例は、県民の生命、身体及び財産を保護するため、防災対策に関し、基本理念を定め、県民、自主防災組織及び事業者の役割並びに県の責務を明らかにするとともに、県民等による地域における防災活動及びこれを推進する施策の基本的な事項を定めることにより、地域における防災力の向上を図り、もって奈良県地域防災計画等に基づき県が実施する防災対策と相まって、県民が安全に安心して暮らせる災害に強い地域社会の実現に寄与することを目的とし、平成26年4月1日より施行している。

2 防災の日及び防災週間

県民等の防災に関する理解を深めるとともに、地域における防災活動の一層の推進を図るため、次に掲げる防災の日及び防災週間を設ける。

- (1) 奈良県地震防災の日 7月9日
- (2) 奈良県地震防災週間 前号に掲げる日を含む知事が定める期間
- (3) 奈良県水害防災の日 8月1日から8月3日まで
- (4) 奈良県水害防災週間 前号に掲げる日を含む知事が定める期間
- (5) 奈良県土砂災害防災の日 9月3日及び9月4日
- (6) 奈良県土砂災害防災週間 前号に掲げる日を含む知事が定める期間

第7 奈良県国土強靱化地域計画との関係

県は、強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法（平成25年法律第95号）に基づき、奈良県国土強靱化地域計画を策定し、その進捗を管理する。国土強靱化地域計画は、地域防災計画と相互補完する。

1 第2期奈良県国土強靱化地域計画

奈良県国土強靱化地域計画は、平成28年度に本県地域の状況に応じた国土強靱化施策の総合的かつ計画的な推進を目的に策定した。

計画の最終年度である令和2年度に、国土強靱化基本計画の見直しや、近年の災害の経験と教訓を踏まえた見直しを行い、第2期奈良県国土強靱化地域計画を策定した。

- (1) 奈良県の目指す姿
「災害に日本一強い奈良県」を目指す
(主な目標値：災害による死者ゼロを目指す)
- (2) 基本目標
1：人命を守る 2：県民の生活を守る 3：迅速な復旧・復興を可能にする
- (3) KPI（重要業績評価指標）88項目の設定
- (4) 「リスクシナリオ（起きてはならない最悪の事態）」21項目に対して脆弱性を評価し、「回避するために必要な取組」を検討
- (5) 令和3年度からの概ね5年間を計画の対象期間とする。

2 国土強靱化アクションプラン

奈良県国土強靱化地域計画の着実な推進のため、具体的な事業をまとめたアクションプランを毎年度策定する。地域防災計画の実施計画としての意味も併せ持つものとする。

第8 奈良県緊急防災大綱との関係

この大綱は、奈良県内で同時多発かつ広域的な浸水害や土砂災害を引き起こす危険性がある豪雨が発生しても犠牲者が出ないように、命を守るための取組・備えを県・市町村が一体となって着実に実施することを目的として、防災対策を取りまとめたもので、平成31年4月に公表している。

第2節 防災関係機関が処置すべき事務 又は業務の大綱

第1 奈良県

機関名	災害予防	災害応急対策	災害復旧・復興
奈良県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災に関する組織の整備・改善 2. 防災に関する知識の普及・教育及び訓練の実施 3. 都市整備、治水、砂防、治山等災害に強い県土づくりの推進 4. 災害危険箇所の災害防止対策 5. 防災に関する施設・設備の整備、点検 6. 災害応急対策又は復旧に必要な物資・資材の備蓄、整備、点検 7. 県防災行政通信ネットワークの整備、運用、点検 8. 消防防災ヘリコプターの運用、点検 9. 国、他都道府県、防災関係機関との相互連携体制の整備 10. 自主防災組織等の育成支援 11. ボランティア活動の環境整備 12. 災害が発生した場合における災害応急対策の実施の支障となるべき状態等の改善 13. 災害応急対策への協力が期待される建設業団体等の担い手の確保・育成の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被害規模の早期把握及び情報の迅速な収集・伝達並びにそのための通信手段の確保 2. 関係機関との連携・協力による活動体制及び市町村応援体制の確立 3. 災害救助法の運用 4. 消火・水防等の応急措置活動 5. 被災者の救助・救急及び医療措置の実施 6. 保健衛生、廃棄物処理に関する措置 7. 緊急輸送体制の確保 8. 緊急物資の調達・供給 9. 児童、生徒の応急教育 10. 施設、設備の応急復旧 11. 県民への広報活動 12. ボランティア、救援物資の適切な受入 13. その他法令及び奈良県地域防災計画に基づく災害応急対策の実施 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被災地域の復旧・復興の基本方針の決定と事業の計画的推進 2. 民生の安定化策の実施 3. 公共施設の早期復旧等、災害復旧対策の実施 4. その他法令及び奈良県地域防災計画に基づく災害復旧・復興対策の実施 5. 義援金の受入れ・配分等に関する計画

	14. その他法令及び奈良県地域防災計画に基づく災害予防の実施		
奈良県警察本部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 危険箇所等の実態把握と基礎資料の整備 2. 災害警備に必要な装備・資機材の整備充実 3. 道路実態の把握と交通規制の策定 4. 防災訓練の実施 5. 災害に関する住民等に対する啓発及び広報活動 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被害の実態把握 2. 被災者の救出救護及び被害の拡大防止 3. 行方不明者の捜索 4. 危険区域内の居住者、滞在者その他の者に対する避難の指示及び誘導 5. 死体の調査等及び検視 6. 緊急交通路の確保等被災地及びその周辺の交通規制 7. 被災地、避難場所等における犯罪の予防検挙 8. 広報活動 9. 関係機関の行う災害復旧活動に対する援助活動 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 交通情報の収集・伝達及び交通規制 2. 交通信号施設等の復旧 3. 防災関係機関の行う災害復旧活動に対する援助活動

第2 市町村

機関名	災害予防	災害応急対策	災害復旧・復興
各市町村	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市町村防災会議に関する事務 2. 気象予警報の伝達 3. 防災知識の普及 4. 地域住民による自主防災組織等の育成及び防災資機材の整備 5. 防災訓練・避難訓練の実施 6. 防災活動体制・通信体制の整備 7. 消防力・消防水利等の整備 8. 救急・救助体制の整備 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市町村災害対策本部に関する事務 2. 災害対策要員の動員 3. 早期災害情報・被害状況等の報告 4. ヘリコプターの受入準備 5. 災害広報 6. 消防、救急救助、水防等の応急措置 7. 被災者の救出・救難・救助等 8. ボランティアの活動支援 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被災施設の復旧 2. 義援金の配分の支援 3. その他法令及び市町村地域防災計画に基づく復旧・復興対策の実施

第1章 総則 第2節 防災関係機関が処置すべき事務又は業務の大綱

	<p>9. 危険物施設等の災害予防</p> <p>10. 公共建築物・公共施設の強化</p> <p>11. 都市の防災構造の強化</p> <p>12. 水道の確保体制の整備</p> <p>13. 避難計画の作成及び避難所等の整備</p> <p>14. ボランティア活動支援の環境の整備</p> <p>15. 要配慮者の安全確保体制の整備</p> <p>16. 食料、飲料水、生活必需品の備蓄</p> <p>17. 防疫予防体制の整備</p> <p>18. 廃棄物処理体制の整備</p> <p>19. 火葬場等の確保体制の整備</p>	<p>9. 要配慮者の福祉的処遇</p> <p>10. 避難の指示</p> <p>11. 避難所の設置・運営</p> <p>12. 災害時における交通・輸送の確保</p> <p>13. 食料、飲料水、生活必需品の供給</p> <p>14. 危険物施設等の応急対策</p> <p>15. 防疫等応急保健衛生対策</p> <p>16. 遺体の搜索、火葬等</p> <p>17. 廃棄物の処理及び清掃</p> <p>18. 災害時における文教対策</p> <p>19. 復旧資材の確保</p> <p>20. 被災施設の応急対策</p> <p>21. 義援金の募集活動の支援</p>	
--	--	---	--

第3 指定地方行政機関

機関名	災害予防	災害応急対策	災害復旧・復興
近畿管区警察局	<p>1. 近畿管区内広域緊急援助隊の合同警備訓練の実施</p> <p>2. 気象予警報の伝達</p> <p>3. 管区内各府県警察に対する災害対策の指導・調整</p>	<p>1. 警察災害派遣隊の派遣に関する調整</p> <p>2. 他管区警察局との連携</p> <p>3. 関係機関との協力</p> <p>4. 情報の収集及び連絡</p> <p>5. 警察通信の運用</p>	
近畿総合通信局	<p>1. 災害時に備えての電気通信施設の高度化、整備の促進及び電波の監理</p> <p>2. 非常通信協議会の指導育成</p> <p>3. 情報伝達手段の多様化・多重化の促進</p>	<p>1. 災害時における通信手段の確保</p> <p>2. 災害対策用移動通信機器等の貸出し</p>	
近畿財務局奈良財務事務所			<p>1. 災害復旧事業費査定の立</p>

			<p>会</p> <p>2. 金融機関に対する緊急措置の指導要請</p> <p>3. 地方公共団体に対する単独災害復旧事業費（起債分）の審査及び災害融資</p> <p>4. 地方公共団体に対する災害短期資金（財政融資資金）の融資</p> <p>5. 国有財産の無償貸付等に関すること</p>
近畿厚生局		<p>救援等に係る情報の収集及び提供</p>	
奈良労働局	<p>工場、事業場における産業災害防止の指導監督</p>	<p>災害応急対策に要する労務の確保に関すること</p>	<p>1. 職業の斡旋</p> <p>2. 雇用保険料の納期の延長に関すること</p> <p>3. 雇用給付金の支給等に関すること</p>
近畿農政局	<p>1. 農地、農業用施設等の災害防止事業の指導並びに助成</p> <p>2. 農作物等の防災管理指導</p>	<p>1. 土地改良機械の緊急貸付</p> <p>2. 農業関係被害情報の収集報告</p> <p>3. 農作物等の病虫害の防除指導</p> <p>4. 食料品、飼料、種もみ等の安定供給対策</p>	<p>1. 各種現地調査団の派遣</p> <p>2. 農地、農業用施設等に係る災害復旧事業の指導並びに助成</p> <p>3. 被害農林漁業者等に対する災害融資に関する対策</p>
近畿中国森林管理局	<p>1. 国有保安林、保安施設、地すべり防止施設等の整</p>	<p>災害対策用復旧用材の供給</p>	<p>国有林における崩壊地、地すべ</p>

	備 2. 治山施設による災害予 防		り防止施設等の 災害復旧
近畿経済産業 局		<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害対策用物資の供給に関する情報の収集及び伝達 2. 電力・ガスの供給の確保 3. 災害時における所管事業に関する情報の収集及び伝達 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活必需品、復旧資材等の供給に関する情報の収集及び伝達 2. 被災中小企業の事業再開に関する相談・支援 3. 電力・ガスの復旧支援
中部近畿産業 保安監督部 近畿支部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気、ガス等ライフラインの保安に関する事業者等の指導監督 2. 高圧ガス、液化石油ガス及び火薬類並びに石油コンビナート施設の保安に係る業務の指導監督 3. 鉱山の保安に関する業務の指導監督 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における事故状況の収集・把握及び関係機関への連絡 2. 電気、ガス、高圧ガス、液化石油ガス及び火薬類並びに石油コンビナート施設の保安の確保 3. 鉱山における危害の防止、施設の保全及び鉱害の防止についての保安の確保 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気、ガス、高圧ガス、液化石油ガス及び火薬類並びに石油コンビナート施設に係る被災事業者への復旧対策支援 2. 被災鉱山への復旧対策支援
近畿地方整備 局	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国管理の公共土木施設の整備と防災管理に関すること 2. 応急復旧資機材の整備及び備蓄に関すること 3. 国管理の公共土木施設の応急点検体制の整備に関すること 4. 指定河川の洪水予報及び水防警報の発表及び伝達に関すること 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国管理道路の災害時における道路通行規制及び道路交通の確保に関すること 2. 国管理の公共土木施設の二次災害の防止に関すること 3. 災害対応の応援 	国管理の公共土木施設の復旧に関すること
近畿運輸局	所管する交通施設及び設備の整備についての指導	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時における所管事業に関する情報の収集及び伝達 	

		<ul style="list-style-type: none"> 2. 災害時における交通機関利用者への情報の提供 3. 災害時における旅客輸送確保にかかる代替輸送・迂回輸送等実施のための調整 4. 災害時における貨物輸送確保にかかる貨物運送事業者に対する協力要請 5. 特に必要があると認める場合の輸送命令 	
大阪航空局八尾空港事務所	航空機を使用した防災訓練の調整及び指導	<ul style="list-style-type: none"> 1. 災害時における航空機による捜索救難の調整及び関係者への情報伝達 2. 災害時における緊急空輸のための八尾空港使用調整 	
近畿地方測量部	<ul style="list-style-type: none"> 1. 地理空間情報の提供 2. 地理情報システムの活用支援 3. 防災地理情報の整備 	地理空間情報・防災関連情報の把握及び提供	復旧測量等の実施及び支援
大阪管区气象台（奈良地方气象台）	<ul style="list-style-type: none"> 1. 気象、地象、地動及び水象の観測並びにその成果の収集及び発表 2. 気象、地象（地震にあっては、発生した断層運動による地震動に限る）及び水象の予報並びに警報等の防災気象情報の発表、伝達及び解説 3. 気象業務に必要な観測、予報及び通信施設の整備 4. 地方公共団体が行う防災対策に関する技術的な支援・助言 5. 防災気象情報の理解促進、防災知識の普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 災害発生後における注意報・警報・土砂災害警戒情報の暫定基準の運用 2. 災害時の応急活動を支援するため、災害時気象支援資料の提供及び解説（職員の派遣等） 	被災地域への支援情報の提供

大阪海上保安監部		<ol style="list-style-type: none"> 1. 被害情報の収集 2. 被災者の捜索救助活動 3. 被災者等の搬送 4. 救援物資の輸送 	
近畿地方環境事務所			<ol style="list-style-type: none"> 1. 廃棄物処理施設等の被害状況、瓦礫等の廃棄物の発生量の情報収集及び災害査定業務に関すること 2. 特に必要な場合の、有害物質等の発生状況等の情報収集及び関係機関との連絡・調整
近畿中部防衛局		<ol style="list-style-type: none"> 1. 在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整の支援に関すること 2. 自衛隊の災害派遣の実施において、部隊等の長が実施する奈良県その他必要な関係機関との連絡調整の協力に関すること 	

第4 自衛隊

機関名	災害予防	災害応急対策	災害復旧・復興
陸上自衛隊 第4施設団	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害派遣の計画及び準備 (1) 防災関係資料（災害派遣に必要な情報）の収集 (2) 災害派遣計画の作成 (3) 災害派遣計画に基づ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 被害状況の把握 2. 避難の援助 3. 遭難者等の捜索救助 4. 水防活動 5. 消防活動 6. 道路又は水路の啓開 7. 応急医療・救護・防 	災害復旧対策の支援

	<p>く訓練の実施 2. 防災訓練等への参加</p>	<p>疫 8. 人員及び物資の緊急輸送 9. 炊飯及び給水 10. 救援物資の無償貸与又は譲与 11. 危険物の保安及び除去等</p>	
--	--------------------------------	---	--

第5 指定公共機関

機関名	災害予防	災害応急対策	災害復旧・復興
日本郵便株式会社（奈良中央郵便局）		<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害地の被災者に対する郵便葉書等の無償交付 2. 被災者が差し出す郵便物の料金免除 3. 被災地宛て救助用郵便物等の料金免除 4. 被災地宛て寄付金を内容とする郵便物の料金免除 	
日本銀行（大阪支店）		<ol style="list-style-type: none"> 1. 銀行券の発行並びに通貨及び金融の調節 2. 資金決済の円滑な確保を通じ、信用秩序の維持に資するための措置 3. 金融機関の業務運営の確保に係る措置 4. 金融機関による金融上の措置の実施に係る要請 5. 各種措置に関する広報 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 銀行券の発行並びに通貨及び金融の調節 2. 資金決済の円滑な確保を通じ、信用秩序の維持に資するための措置 3. 金融機関の業務運営の確保に係る措置 4. 金融機関による金融上の措置の実施に係る要請 5. 各種措置に関する広報

西日本旅客鉄道株式会社	鉄道施設の保全と整備	1. 災害時における緊急鉄道輸送の確保 2. 鉄道施設の災害応急対策	被災鉄道施設の復旧
西日本電信電話株式会社 (奈良支店)	1. 電気通信設備の保全と整備 2. 気象情報の伝達	1. 電気通信設備の応急対策 2. 災害時における非常緊急通信の調整	被災電気通信設備の災害復旧
日本赤十字社 奈良県支部	1. 医療救護班の派遣準備 2. 被災者に対する救援物資の備蓄 3. 血液製剤の確保及び供給体制の整備	1. 災害時における医療救護 2. 避難所での生活環境の整備及びこころのケア 3. 防災ボランティアの派遣 4. 血液製剤の確保及び供給 5. 救援物資の配分	義援金の受入れ・配分の連絡調整
日本放送協会 (奈良放送局)	1. 放送施設の保全と整備 2. 気象予警報等の放送	1. 気象情報等および災害情報の放送 2. 災害時における広報活動 3. 放送施設の応急対策	被災放送施設の復旧
西日本高速道路株式会社 (関西支社)	高速自動車国道等の保全と整備	高速自動車国道等の応急対策	高速自動車国道等の復旧
独立行政法人 水資源機構 (関西・吉野川支社)	所管ダム施設の保全	所管ダムの施設の応急対策	所管被災ダム施設の復旧
電源開発株式会社 (西日本支店)	1. 所管ダム施設及び電力施設の保全 2. 気象観測通報についての協力	所管ダム施設及び電力施設の応急対策	所管被災ダム施設及び電力施設の復旧

大阪ガス株式会社 大阪ガスネットワーク株式会社（北東部事業部）	ガスの供給施設の保全と防災管理	1. ガス供給施設の応急対策 2. 災害時における供給対策	被災ガス供給施設の復旧
日本通運株式会社（奈良事業所）		災害時における緊急陸上輸送の協力	復旧資材の輸送
関西電力株式会社（奈良支社） 関西電力送配電株式会社（奈良支社）	電力施設の保全	1. 災害時における電力供給対策 2. 電力施設の応急対策	被災電力施設の復旧

第6 指定地方公共機関

機関名	災害予防	災害応急対策	災害復旧・復興
近畿日本鉄道株式会社 奈良交通株式会社	輸送施設等の保全と整備	1. 災害時における交通輸送の確保 2. 輸送施設等の災害応急対策	被災輸送施設等の復旧
桜井ガス株式会社 五条ガス株式会社 大和ガス株式会社	ガス供給施設の保全と整備	1. ガス供給施設の応急対策 2. 災害時におけるガス供給対策	被災ガス供給施設の復旧
大和平野土地改良区 倉橋溜池土地改良区	土地改良区が管理している水門・水路・ため池等土地改良施設の保全及び整備	土地改良区が管理している農業用施設の被害調査	土地改良区が管理している被災農業用施設の復旧

北倭土地改良区			
白川溜池土地改良区連合			
奈良テレビ放送株式会社 関西テレビ放送株式会社 讀賣テレビ放送株式会社 株式会社毎日放送 朝日放送テレビ株式会社 朝日放送ラジオ株式会社	1. 放送施設の保全と防災管理 2. 気象予警報等の放送	1. 気象情報等及び災害情報の放送 2. 災害時における広報活動 3. 放送施設の応急対策	被災放送施設の復旧
株式会社朝日新聞社(奈良総局) 株式会社毎日新聞社(奈良支局) 株式会社讀賣新聞大阪本社(奈良支局) 株式会社産業経済新聞社(奈良支局) 株式会社日本経済新聞社(奈良支局)	1. 住民に対する防災知識の普及 2. 住民に対する予警報等の周知徹底	住民に対する災害情報及び災害応急対策等の報道	

株式会社中日新聞社(奈良支局)			
株式会社奈良新聞社 一般社団法人共同通信社(奈良支局)			
株式会社時事通信社(奈良支局)			
一般社団法人奈良県医師会	1. 防災訓練の実施 2. 防災知識の普及 3. 医療救護班(JMAT)の編成及び派遣体制の整備	災害時における医療の確保及び医療救護班(JMAT)の派遣	1. 医療機関の早期復旧 2. 避難所の医療救護及び保健衛生の確保
一般社団法人奈良県病院協会	1. 防災訓練の実施 2. 防災知識の普及 3. 医療救護班の編成及び派遣体制の整備	災害時における医療の確保及び医療救護班の派遣	医療機関の早期復旧
一般社団法人奈良県薬剤師会	1. 防災訓練の実施 2. 防災知識の普及	1. 医療救護所における服薬指導 2. 医薬品等集積所における医薬品の管理等	
一般社団法人奈良県歯科医師会	1. 歯型による身元確認等の研修 2. 歯科医療救護班の編成及び派遣体制の整備	1. 災害時における歯科医療の確保及び医療救護班の派遣 2. 身元確認班の派遣 3. 口腔ケア物資の供給	1. 避難所への口腔ケア班の派遣による肺炎予防活動 2. 歯科医療機関の早期復旧
公益社団法人奈良県看護協会	1. 防災訓練の実施 2. 防災知識の普及	1. 災害支援ナースの派遣要請 2. 災害支援ナースの派遣調整	
一般社団法人奈良県LPガス協会	LPガスによる災害の防止	LPガスによる災害の応急対策	LPガスによる災害の復旧

公益社団法人 奈良県トラック協会		1. 緊急物資の輸送 2. 緊急輸送車両の確保	
富士運輸株式会社		特殊車両その他可搬拠点等の設置及び供与	
奈良県土地開発公社	所管施設の整備	所管被災施設の応急対策	所管被災施設の復旧

第7 公共的団体・機関

機関名	災害予防	災害応急対策	災害復旧・復興
報道機関	1. 住民に対する防災知識の普及 2. 住民に対する予警報等の周知徹底	住民に対する災害情報及び災害応急対策等の報道	
農業協同組合 森林組合 水産業協同組合	共同利用施設の整備	1. 共同利用施設の災害応急対策 2. 農林業生産資材及び農林家生活資材の確保 斡旋 3. 県市町村が行う被災状況調査及びその応急対策についての協力 4. 農作物・林産物の被害応急対策の指導	1. 被災共同利用施設の復旧 2. 被災組合員に対する融資又は斡旋
病院等	1. 災害時における診療機能維持のための施設・設備の整備 2. 防災訓練	災害時における医療の確保及び負傷者の医療・助産救護	病院機能の早期復旧
社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会	1. 関係機関との連携 2. 県災害ボランティア本部の設置・運営訓練 3. 奈良県災害福祉支援ネットワークの運営	1. 市町村災害ボランティアセンターの運営支援 2. 奈良県災害派遣福祉チーム（DWA T）の派遣	

第1章 総則 第2節 防災関係機関が処置すべき事務又は業務の大綱

金融機関			<ol style="list-style-type: none"> 1. 被災事業者に対する資金融資その他緊急措置 2. 預貯金の中途解約、払出事務の簡便化など特例措置
学校法人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 避難施設の整備 2. 避難訓練 	災害時における応急教育対策	被災施設の復旧
商工会議所 商工会		<ol style="list-style-type: none"> 1. 物価安定についての協力 2. 救助用物資・復旧資材の確保・協力斡旋 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 商工業者への融資斡旋実施 2. 災害時における中央資金源の導入
奈良県葬祭業協同組合及び全日本葬祭業協同組合連合会		災害時等における棺及び葬祭用品の提供	
一般社団法人全国霊柩自動車協会		災害時等における遺体の搬送	
奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合		<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時の要配慮者の宿泊受入れ 2. 災害時の帰宅等困難者への支援 	
公益社団法人奈良県獣医師会		<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害時の被災動物の救護 2. 災害時の被災動物飼養者への支援 	

第3節 奈良県の自然的・社会的条件

(防災統括室)

第1 位置

本県は、我が国の中央にあたる近畿地方の中央よりやや南に位置している。本県の北半分は近畿中央低区の一部となっており、北東から北西にかけて京都府、大阪府に接し、南西から南は和歌山県に、東は三重県に接している。

本県の四極は、次のとおりである。

東	東経	136度12分	宇陀郡御杖村神末
西	東経	135度33分	吉野郡野迫川村弓手原
南	北緯	33度52分	吉野郡十津川村竹筒
北	北緯	34度47分	生駒市高山

中央の経度は、東経135度52.5分で春日山、多武峰、上市、川合（天川村）、七面山、竹筒（十津川村）を通過し、中央緯度は北緯34度19.5分で五條、金峰神山（吉野町）、迫（川上村）を通過している。

第2 面積

本県の面積は、3,691.09k㎡で、全国総面積の約1%に相当し、都道府県中第40位である。

市町村中の最大、最小は次のとおりである。

最大	吉野郡十津川村	672.35k㎡
最小	磯城郡三宅町	4.07k㎡

十津川村は県総面積の18%にあたり奈良盆地の2倍以上の広さにあたる。

第3 地勢、地質

本県の地形は、吉野川に沿ってほぼ東西に走る中央構造線により、南部山地（吉野山地）と中央低地（北部低地）に分かれている。

北部低地帯は瀬戸内陥落地帯の東部にあたり、断層により陥落した地構盆地である奈良盆地を中心に、これを取りまいて生駒・葛城・笠置の各山脈、竜門山塊、奈良丘陵の山地からなる。奈良盆地は南北約30km、東西約16km、面積約300k㎡で海拔40～60mの非常に平坦な沖積層からなっている。河川は盆地の東南隅より流出する初瀬川を主流とし、四周の河川を合して大和川となり、生駒金剛山脈を横断して大阪平野へ流出している。

大阪府と奈良県の府県境付近の大和川が大阪平野に抜けようとする狭窄部に「亀の瀬」と呼ばれる地区があり、明治以降3度（明治36年7月、昭和6～8年、昭和42年2月）にわたり大規模な地すべりが発生している。仮に同地区で地すべりが発生し、15mの高さでせき止められ、大和川が完全に閉塞した場合、奈良県側は総面積約600ha、4,700世帯以上の住民、650以上の会社、230ha以上の田畑が浸水

することになると予想されている（国土交通省近畿地方整備局ホームページより）が、平成25年12月現在、国土交通省近畿地方整備局による地すべり対策工事が管理用道路等を除き完了している。

奈良盆地東側に隣接している大和高原地区は海拔400～500mの高原である。また、宇陀山地は竜門山塊の東に位置し、標高100m前後の複雑な丘陵地帯をなし、宇陀盆地と高見山麓及び室生火山群地帯とからなる。

南部山岳地帯は本県の南部一体を占める山岳地帯で、東は台高山脈を隔て三重県に、南西は和歌山県に、北辺は竜門山塊によって大和平野及び大和高原に接している。中央部は大峰山系によって十津川流域と、北山川流域とに分けられ、大台ヶ原、伯母ヶ峰、山上ヶ岳、大天井ヶ岳、武士ヶ峰、天辻峠を連ねる横断山脈によって吉野川流域と分水嶺をなしている。

なお、平成23年紀伊半島大水害では、県内約1,800か所で土砂移動現象が発生した。崩壊土砂量は紀伊半島全体で約1億 m^3 （東京ドーム80杯分）と推定されている。これは戦後の豪雨災害では最大の土砂量であり、そのうち約9割の8,600万 m^3 が県内で発生したと推定されている。

また、紀伊半島大水害では崩壊面積10,000 m^2 以上、推定崩壊深10m以上等の深層崩壊が54か所発生した。「大規模土砂災害監視・警戒・避難システム検討会」の調査結果からは、深層崩壊を含む大規模土砂崩壊は累積雨量が600mm～1,000mm超で発生し、降雨のピーク後にも崩壊が発生したことが分かっている。

第4 気象

1 気候の特徴

奈良県の気候は、温暖な内陸型気候であるが、地形特性から次のような3つの特徴がある。

- (1) 全般に風が弱く、風向分布にも顕著な地域性が見られる。台風をはじめ、いずれの気圧配置においても強風の出現は少ない。
- (2) 海岸線を持たないが海洋の影響を受け、温帯地帯としては世界的にも希な多雨地帯を有する。
- (3) 気温分布の地域差が大きい。

気象の諸要素を総合して地域を分類すると、①奈良盆地区、②生駒・金剛山地区、③大和高原・宇陀山系区、④吉野山岳区、⑤吉野川中流域区、⑥吉野南面区の6つの小気候区となる。

①奈良盆地区は、概ね温和であるが、海洋から隔たり、盆地であるため内陸型気候となっている。②生駒・金剛山地区は、標高が高いため、奈良盆地に比べ年間を通じて3～4℃低い。③大和高原・宇陀山系区は、内陸型気候であるが、④吉野山岳区に類似している。④吉野山岳区は、気温の較差が大きく、冬は厳しい冬山の様相となる。年降水量は太平洋の影響を受け2,000～5,000mmと多く、大台ヶ原山は日本でも有数の多雨地帯である。⑤吉野川中流域区は、夏の気温は奈良盆地と大差はないが幾分低く、冬は⑥吉野南面区に次いで温和であり、紀伊水道に向かって開けているため、下流になるにしたがい暖かくなる。⑥吉野南面区は、ほぼ北山川の河合より南及び十津川の

上野地より南の渓谷地で、冬の最低気温は奈良盆地より約1℃低いが、夏の最高気温が奈良盆地より約2℃低く、年較差は小さい。北山川と十津川流域では地形的特徴から降水状況が異なり、季節を問わず、南西気流の時は十津川流域の降水量が多く、南東気流の時は北山川流域の降水量が多くなる。

2 気象の特徴

(1) 気温

気温は一般に緯度や標高などによって大きく差が現れる。また、海水温の影響を受けて変化する。しかし、奈良県は海に面しない内陸県であるため、主に標高や複雑な地形の影響による気温の分布を示している。

県内で最も気温の高い地域は、奈良盆地や紀ノ川(吉野川)流域などの低地部であり、年平均気温は14℃以上となっている。この地域から周辺の山地に向かって、標高が増すにしたがって気温が低くなっていく。一般的に気温は、海拔高度が100m高くなるにつれて0.5～0.6℃低くなる。

県南部はそのほとんどが山岳地であり、なかでも大台ヶ原山地、大峰山脈や伯母子山地では標高1,000m以上の高い山が連立しており、これらの山上では気温がかなり低いことが想像できる。その山間にある風屋(標高301m)と上北山(標高334m)は比較的気温が高い。これは、その地を流れる熊野川(十津川・北山川)に沿って、太平洋の暖流の影響が及んできているためである。

(2) 風

奈良県は内陸県で、周囲を山で囲まれており、風が弱く風向分布にも顕著な地形性が見られる。

比較的平野部に恵まれた北部では、年間を通して概ね北よりの風が他の風向より多く、山岳地帯が多くを占める南部では、東及び西の風が多い。

局地的な強風の主なものとして、山越え気流が強風になったものと、河谷に沿って吹く強風とがあり、主に地形の複雑な東部山地、南部山岳地に多く発生する。その原因は台風、低気圧、前線、季節風などである。

代表的な局地風としては平野風がある。平野風とは、吉野郡東吉野村平野において発生する高見山からの吹き下ろしの強風で、低気圧や台風が南海上にあり、東風の吹きやすい気圧配置の時に現れ、県内のどの地点にも先んじて風速が強くなり、その継続時間も長いことが特徴である。その昔、農作物の被害が毎年甚大であったことから、地元では別名、貧乏風とも呼んでいる。

河谷に沿って吹く強風には、平野風のように固有名詞として知られるものはないが、風は一般に谷間に沿って吹きやすいため、被害をもたらすことがしばしばある。吉野郡上北山村西原の強風や、同郡天川村洞川の南よりの強風などが代表的なものといえる。

(3) 降水量

奈良県は、北部には奈良盆地を中心とする大和平野があり、南部は標高1,000m以上の山地であるため、降水分布に大きな差がある。

奈良盆地を中心とする平野部では、年降水量が1,400mm以下で全国平均を下回る少雨地帯であるのに対し、南部山地では2,000mm以上の降水があり、特に南東部の大台ヶ原山地では5,000mm以上に達する日本屈指の多雨地帯となっている。

南北のコントラストがはっきりしているのが特徴である。

また、雨の降り方にも大きな特徴がある。台風または熱帯低気圧の北上に伴った南東気流の影響で、北部では雨らしい雨が降らなくても、大台ヶ原山地周辺の狭い地域では500～800mmの大雨が降る場合がある。この現象を「背降り」という。

なお平成23年台風第12号では、8月30日18時から9月4日24時までの総降水量が紀伊半島の南東部を中心に広い範囲で1,000mmを超えており、一部の地域では2,000mmを超えた（国土交通省が大台ヶ原に設置した雨量計では、30日夜から5日未明の間の総降水量が2,436mmと観測された）。本県において、過去およそ100年間で台風等によるそれまでの最大降水量は1,241mmであり、それをはるかに上回る降水量が記録された。

県北部においても、平成25年8月5日には奈良市半田開町で8月の観測史上最大となる時間雨量58.0mmが観測されたほか、平成30年7月29日に、奈良市付近で約100mm、天理市付近で約120mm、桜井市付近で120mm以上の1時間雨量が解析され、記録的短時間大雨情報が相次いで発表されるなど、近年、局地的大雨が多発する傾向にある。

第4節 奈良県の過去の災害

(防災統括室)

第1 奈良県の過去の災害

次の災害年表は、「奈良県の気象百年」（平成9年 奈良地方気象台発行）や、奈良地方気象台より提供された資料をもとに、平成7年（1995年）以前の災害については死者が発生したもの、平成8年（1996年）以降は、死傷者が発生していなくても、比較的大きな被害が発生した災害について掲載した。

県及び市町村は、このような過去に発生した災害の教訓を後世に伝えるために、過去の災害についての資料を収集・保存し、広く一般に閲覧できるよう公開に努める。

※県では、災害の歴史から学び、今後の教訓として活かすため、古くは江戸時代から、県内で被害が発生した様々な災害をわかりやすくまとめた「歴史から学ぶ 奈良の災害史」を平成26年度に作成した。

奈良県の気象災害(大正元年～令和4年)

発生日月	災害名	異常気象名 (主な要因)	被害概要	参考値
大正元年9月21日～ 9月23日	暴風雨害	強風、大雨(台風)	猛烈な台風が、22日午後10時に高知県足摺岬付近に上陸し、京阪以西に非常な猛威をふるった。県内の死者は、添上郡5名、生駒郡1名、磯城郡9名、高市郡14名、北葛城郡1名、南葛城郡4名、宇智郡1名、吉野郡15名、奈良市1名の合計51名となっている。また、大和風水害報文によると、春日神社境内及び奈良公園での吹倒木・吹折木は17,354本であった。総被害額は、298万6,098円にのぼった。	・期間降水量(21日10時～24日10時) 大台ヶ原 814.0mm 迫 414.0mm 菅野 383.5mm 小森 330.8mm 河合 285.7mm 奈良(油阪) 115.6mm 八木 144.8mm ・日最大風速(23日04時05分) 八木SSW 25.7m/s
大正6年9月28日～ 9月30日	水害	大雨、強風(台風)	台風が、30日夜遅く潮岬岬が洋上を東進して東海道へ進み、沼津(最低気圧:10月1日02時30分)付近に上陸した。奈良県は関東に比べて被害は僅少であるが、近隣府県に比べ桁外れの被害を受けた。雨量は県内平均的に降り、台風の襲来を受けるまでに各地は相当湿っていたため、被害が拡大した。県内の主な被害は、死者25名、行方不明5名、負傷者24名、家屋全壊35戸、半壊117戸、床上浸水3,341戸、床下浸水6,360戸等となっている。	・期間降水量(9月28日10時～10月1日10時) 洞川 454.7mm 菅野 434.5mm 小森 390.6mm 大台ヶ原 381.4mm 迫 355.4mm 寺垣内 346.7mm 奈良(油阪) 218.1mm 八木 311.7mm ・日最大風速(30日22時) 八木 NNW 9.7m/s
大正10年9月23日～ 9月25日	暴風雨害	大雨(台風)	台風は、25日23時30分潮岬の西方近距離の地点に上陸して、奈良、京都付近を経て26日03時敦賀付近から日本海へ出た。平坦部は特に風勢が猛烈で、山間部は雨勢の方が激烈であった。県内の主な被害は、死者5名、負傷者23名、建物被害21,142戸(家屋全壊342戸を含む)等。その他、樹木、稲、果実などに多大の被害を被った。	・期間降水量(23日10時～26日10時) 大台ヶ原 600.1mm 前鬼 537.0mm 河合 370mm 奈良(油阪) 82.1mm 八木 76.7mm ・日最大風速(26日02時20分) 八木 SSW19.7m/s
昭和5年7月30日～ 8月1日	水害	大雨(台風)	サイパン島の北西方で発生した台風が、八丈島の西を経て、7月31日未明伊勢湾口に達した。奈良県に及ぼす風力の影響は余りなかったが、豪雨となって河川が氾濫し、主として平坦部大和川流域で被害を受けた。県内の主な被害は、死者5名、行方不明2名、負傷者14名、全壊22戸、半壊81戸、流失42戸、浸水6,149戸、堤防決壊205カ所、道路損壊9,229間、橋梁流失135カ所、田畑浸水・流失3,668町歩、山林崩壊344カ所、鉄軌道被害9カ所等の上った。	・期間降水量(7月30日10時～8月2日10時) 洞川 559.5mm 榛原 522.0mm 上之郷 422.4mm 曾爾 377.5mm 鷲家口 337.8mm 上市 320.1mm 奈良(登大路町) 147.6mm 八木 219.9mm 日最大風速(31日11時) 八木 W 6.4m/s
昭和9年9月17日～ 9月21日	暴風雨害	強風、大雨 《室戸台風》	この台風は、日本に襲したものの最大級であった。そのコースは、13日パラオ島の南東海上に現れ北西進して、19日夜半沖繩の南東海上で北から北北東に転向し、21日05時に室戸岬の西方に上陸して大阪湾に入り、07時50分に神戸の東方深江付近を経て大阪・京都を襲った。人的被害の大阪府の死者1,678名、行方不明210名、負傷者8,656名を始め、全国で死者2,702名、行方不明334名、負傷者14,994名の大惨事を被った。奈良県でも台風の中心経路に近く、全域で相当の被害を受けた。県内の主な被害は、死者11名、負傷者79名、家屋全壊643戸、半壊710戸、学校全壊5校、半壊3校、橋梁流失42カ所、道路損壊321カ所、堤防決壊47カ所等となっている。また、農作物被害は424万129円、損害見積額は710万9,742円に上った。	期間降水量(17日10時～22日10時) 大台ヶ原 452.0mm 寺垣内 383.0mm 河合 282.0mm 前鬼 264.6mm 入之波 236.9mm 小森 215.3mm 洞川 199.5mm 荒神岳 191.9mm 南日裏 178.7mm 菅野 176.8mm 迫 163.6mm 曾爾 125.8mm 奈良(登大路町) 41.8mm 八木 63.3mm 日最大風速(21日08時40分) 八木SSE 22.3m/s
昭和25年9月1日～ 9月3日	暴風雨害	強風、大雨 《ジェーン台風》	猛烈な台風が、室戸岬東方を通過し、徳島県南東端、淡路島南東端をかすめ、3日12時過ぎに神戸市垂水区付近に上陸した。このため、京阪神や四国、和歌山沿岸地方に大被害を与えた。人的被害は、大阪府の死者211名、行方不明49名、負傷者8,631名を始め、全国で死者336名、行方不明172名、負傷者10,930名、罹災者87万余名に及んだ。県内の主な被害は、死者1名、負傷者15名、家屋全壊151戸、半壊1,576戸、焼失9戸、床上浸水14戸、床下浸水122戸、非住家被害397戸、田流失・埋没25町、田冠水197町、畑流失・埋没27町、畑冠水117町、道路損壊144カ所、橋梁流失65カ所、堤防決壊1カ所、通信施設被害13カ所、電柱倒壊2,000本等の上った。	期間降水量(1日10時～4日10時) 大台ヶ原 850.9mm 河合 432.2mm 寺垣内 316.1mm 玉置山 271.1mm 上市 206.3mm 荒神岳 197.8mm 曾爾 178.0mm 榛原 133.5mm 奈良(肘塚町) 39.7mm 樺原 84.1mm 日最大風速(3日12時03分) 樺原 SSE 19.6m/s 日最大瞬間風速(3日12時20分) 樺原SSE 27.5m/s

発生日	災害名	異常気象名 (主たる要因)	被害概要	参考値
昭和28年7月17日～ 7月20日	水害	大雨 《停滞前線》	紀伊半島では前線が南北に振動し、その通過の際に雷を伴って局地的な豪雨となった。このため、特に、大塔、野迫川村では山崩れにより家屋が倒壊・埋没・流失して、死者27名(野迫川村20名、大塔村7名)を出すに至った。また、十津川村は増水して木材及び橋梁が流失し、至る所で崖崩れを生じた。一方、紀ノ川、大和川各支流も警戒水位を突破し、決壊寸前の状態になった。県内の主な被害は、死者31名、行方不明13名、負傷者30名、家屋全壊59戸、半壊117戸、流失169戸、一部破損1戸、床上浸水95戸、床下浸水1,385戸、非住家被害79戸、田流失・埋没165町、水田冠水1,483町、畑流失・埋没102町、畑冠水84町、道路損壊809カ所、橋梁流失231カ所、堤防決壊25カ所、山・崖崩れ530カ所、鉄軌道被害20カ所等に及んだ。	期間降水量(17日09時～21日09時) 前鬼 799.4mm 玉置山 648.6mm 荒神岳 615.0mm 河合 591.8mm 寺垣内 574.8mm 大台ヶ原 463.1mm 川上 276.9mm 洞川 247.2mm 上市 204.8mm 五條 203.5mm 南之庄 193.2mm 曾爾 187.4mm 榛原 162.0mm 八木 152.1mm 王寺 109.7mm 奈良 123.0mm
昭和28年9月22日～ 9月25日	暴風雨害	強風、大雨 《台風第13号》	台風は、25日15時に潮岬の東方20kmを通過し、17時過ぎに志摩半島を横断して、18時半頃知多半島に上陸した。暴風雨により、近畿・東海地方を中心に全国で死者393名、行方不明85名、負傷者2,559名の甚大な被害を被った。奈良県でも、台風の豪雨圏に入り全域で被害が続出した。特筆すべきは、最大1時間降水量が吉野郡上北山村河合123.4mm、大台ヶ原山頂117.7mmの記録的な短時間豪雨等で吉野川や北山川が氾濫した。また、奈良市内を流れる佐保川、吉城川、菩提川が増水し奈良市佐保、法蓮付近の民家1,300戸が濁水にのまれた。県内の主な被害は、死者8名、行方不明4名、負傷者26名、家屋全壊137戸、半壊533戸、流失103戸、一部破損2,341戸、床上浸水2,265戸、床下浸水8,536戸、非住家被害595戸、田流失・埋没619町、田冠水3,941町、畑流失・埋没303町、畑冠水466町道路損壊669ヶ所、橋梁流出430ヶ所、堤防決壊303ヶ所、山・崖崩れ1,373ヶ所、電柱倒壊448ヶ所、板塀倒壊1,503ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所、船舶流出13隻等になった。	期間降水量(22日09時～26日09時) 大台ヶ原 1017.3mm 河合 748.2mm 前鬼 509.4mm 寺垣内 395.5mm 曾爾 376.2mm 玉置山 323.8mm 南之庄 316.7mm 荒神岳 291.9mm 榛原 235.6mm 多武峰 229.6mm 月ヶ瀬 208.3mm 松山 194.4mm 王寺 176.2mm 八木 167.9mm 五條 160.1mm 高田 154.3mm 三輪 148.2mm 奈良 163.6mm 日最大風速(25日18時00分) 奈良 NNW 21.4m/s 日最大瞬間風速(25日17時55分) 奈良 NNW 29.7m/s
昭和31年9月25日～ 9月27日	水害、強風害	大雨、強風 《台風第15号》	この台風は、25日に沖縄付近から北東進して、27日06時には潮岬の南西約80kmの会場を経て、関東方面に進んだ。このため、25日から県全域で大雨となり、桜井市山間部では土砂崩れのため2名が死亡するなど、県北平坦地を中心に被害が発生した。県内の主な被害は、死者2名、行方不明2名、負傷者2名、家屋全壊7戸、半壊4戸、一部破損45戸、家屋流失6戸、非住家被害18戸、床上浸水559戸、床下浸水3,642戸、堤防決壊7カ所、橋梁流失38カ所、道路損壊59カ所、山・崖崩れ54カ所、田流失・埋没10町、田冠水597町、畑流失・埋没8町、畑冠水92町、鉄軌道被害4カ所、通信施設被害4カ所、電柱倒壊3カ所等になった。	期間降水量(25日09時～28日09時) 前鬼 363.1mm 山上ヶ岳 294.0mm 川上 292.6mm 河合 291.7mm 荒神岳 272.5mm 寺垣内 270.4mm 大字陀 263.8mm 曾爾 255.1mm 八木 241.1mm 奈良 161.1mm 日最大風速(27日07時10分) 奈良 N 12.2m/s 日最大瞬間風速(27日06時57分) 奈良 NW 16.2m/s
昭和32年6月26日～ 6月27日	水害	大雨 《停滞前線、台風第5号》	台風が南シナ海を北上し、九州西岸に接近した。これに伴い、梅雨前線も26日15時頃から紀伊半島を北上して、活動が活発となった。主に県北部で、26日夜半過ぎから雨足が強まり、被害が発生した。県内の主な被害は、死者1名、負傷者1名、行方不明1名、家屋半壊2棟、一部破損2棟、非住家被害3棟、床上浸水116棟、床下浸水946棟、田流失・埋没1町、田冠水1,039町、畑冠水15棟、道路損壊25カ所、橋梁流失4カ所、堤防決壊5カ所、山・崖崩れ9カ所、鉄軌道被害4カ所等となっている。	期間降水量(26日09時～28日09時) 寺垣内 204.5mm 尾山 181.4mm 大淀 178.7mm 王寺 176.8mm 南之庄 175.8mm 前鬼 168.4mm 大字陀 153.6mm 玉置山 153.0mm 五條 105.0mm 八木 102.2mm 奈良 194.7mm
昭和33年8月24日～ 8月25日	水害、強風害	大雨、強風 《台風第17号》	台風が四国の南海上を北上して、25日17時30分頃に和歌山県白浜・御坊間に上陸し、奈良市西方を経て北陸方面に進んだ。このため、県南東部を中心に大雨が降った。被害は県全域で死者2名、行方不明6名、負傷者2名、家屋全壊5戸、半壊44戸、一部破損73戸、家屋流失5戸、非住家被害17戸、床上浸水95戸、床下浸水471戸、田流失・埋没6町歩、田冠水85町、畑流失・埋没4町歩、畑冠水75町歩、道路損壊118カ所、橋梁流失29カ所、堤防決壊5カ所、山・崖崩れ70カ所、通信施設被害44カ所等に及んだ。	期間降水量(24日09時～26日09時) 日出岳 780.0mm 河合 672.6mm 山上ヶ岳 636.0mm 荒神岳 318.5mm 曾爾 286.3mm 八木 147.6mm 奈良 129.9mm 日最大風速(25日19時00分) 奈良 ENE 18.7m/s 日最大瞬間風速(25日22時36分) 奈良 SSW 27.5m/s

発生年月日	災害名	異常気象名 (主要要因)	被害概要	参考値
昭和34年8月12日～ 8月14日	水害	大雨 《停滞前線、台風第7号》	12日から13日にかけて、本州の南海上に停滞する前線を、低気圧が東進してきて四国沖で停滞気味となった。一方、台風が13日朝に小笠原諸島を北上して、14日06時過ぎ東海道に上陸、中部地方を横断して日本海へ去った。このため、県南東部を中心に大雨となり、被害は全域で死者1名、家屋半壊5棟、流失3棟、一部破損2棟、床上浸水86棟、床下浸水2,780棟、非住家被害8棟、田冠水257ha、畑流失・埋没9ha、畑冠水20ha、道路破壊38カ所、橋梁流失52カ所、堤防決壊37カ所、山・崖崩れ65カ所、鉄軌道被害1カ所、通信施設被害42回線等になった。	期間降水量(12日09時～15日09時) 日出岳 593.0mm 前鬼 475.0mm 山上ヶ岳 451.0mm 河合 372.0mm 寺垣内 331.0mm 小原 303.0mm 十津川 300.0mm 川上 274.0mm 荒神岳 243.0mm 曾爾 238.0mm 八木 201.0mm 奈良 221.0mm
昭和34年9月23日～ 9月26日	暴風雨害	強風、大雨 《台風第15号 (伊勢湾台風)》	20日09時、エニウヱック島の西方海上で発生した弱い熱帯低気圧は、次第に発達しながら西から北西方向に進んで、21日21時には台風となった。台風は、その後も北西に進み、23日15時に中心気圧895hPa最大風速75m/sに発達して最盛期となった。この頃から、県南部を中心に大雨が降り始めた。その後、台風は次第に向きを北寄りに変え、26日18時には潮岬の西方から紀伊半島に上陸した。上陸後、奈良県・三重県の県境を通り、24時過ぎに富山市の東方から日本海に抜けた。この台風により、特に伊勢湾や紀伊半島沿岸は高潮・暴風・河川の氾濫を被り、人的被害は愛知県・三重県の死者4,312名、行方不明312名、負傷者36,136名をはじめ、全国で死者4,697名、行方不明401名、負傷者38,921名、罹災者153万余名という未曾有の惨禍を被った。奈良県でも被害は全域に及び、死者88名、行方不明25名、負傷者104名、家屋全壊795棟、半壊1,598棟、流失558棟、一部破損1,056棟、非住家被害653棟、床上浸水6,171棟、床下浸水4,054棟、田流失・埋没421ha、田冠水1,309ha、畑流失・埋没124ha、畑冠水666ha、道路損壊863カ所、橋梁流失381カ所、鉄軌道被害6カ所、通信施設被害118回線、木材流失16,679m ³ 、罹災者概数30,221名等になった。	期間降水量(23日09時～27日09時) 河合 881.0mm 前鬼 867.0mm 日出岳 826.0mm 山上ヶ岳 701.0mm 川上 671.0mm 十津川 656.0mm 高見 496.0mm 寺垣内 489.0mm 洞川 451.0mm 曾爾 443.0mm 七面山 40.0mm 小原 407.0mm 榛原 325.0mm 尾山 313.0mm 大淀 283.0mm 大宇陀 253.0mm 荒神岳 237.0mm 南之庄 212.0mm 八木 201.0mm 岡 199.0mm 陣ヶ峰 171.0mm 王寺 134.0mm 奈良221.0mm 日最大風速(26日17時05分) 奈良 ENE 23.3m/s 日最大瞬間風速 奈良 ENE 32.6m/s
昭和36年7月9日	落雷害、電害	雷 《雷雨(熱雷、界雷)、 太平洋高気圧、停滞 前線》	9日の日中はかなり気温が上昇したが、この日は北上していた前線が南下する気配をみせて、午後には近畿地方の所々で雷雲が発生した。奈良県では、夕方に磯城郡、宇陀郡、天理市等で降雷があり、そのうち天理市で1名が落雷により死亡した。また、各地の配電線に被害を与え停電した所もあった。	期間降水量(9日09時～10日09時) 榛原 51.0mm 南之庄 45.0mm 日最大1時間降水量(9日18時32分) 奈良 27.5mm 日最高気温(00時～24時)
昭和36年8月21日	落雷害	雷 《雷雨(界雷、熱雷)、 停滞前線》	関東の東海上の低気圧から西に延びる前線が、近畿地方を横切りゆつくりと南下した。このため、15時10分頃広陵町で落雷により1名が死亡、2名が負傷した。また、生駒町で浸水のため、電車が一時不通、奈良市で落雷のため2,500余戸が停電した。	期間降水量(21日09時～22日09時) 八木 57.0mm 王寺 26.0mm 田原本 15.0mm 日最高気温(00時～24時) 奈良 32.7℃
昭和36年9月14日～ 9月16日	暴風雨害	強風、大雨 《台風第18号 (第2室戸台風)》	6日21時、マーシャル諸島東部に発生した弱い熱帯低気圧は、西に進んで発達し、8日09時エニウヱック島の南方で台風となった。台風は、西北西進して12日09時に中心気圧890hPa最大風速75m/sに発達して最盛期となった。その後、14日に沖縄の東海上を北上し、15日09時に奄美大島を通過した頃から北東に向きを変えた。この頃から県南東部を中心に大雨となり、16日09時すぎには室戸岬の西方に上陸した。13時過ぎに神戸・大阪間に再上陸して、18時には能登半島東部に達した。この台風により、近畿地方や新潟県をはじめ、全国で高潮・暴風・大雨等により、人的被害は、死者194名、行方不明8名、負傷者4,972名に達し、罹災者は90万名を超えた。奈良県でも全域で死者6名、負傷者142名、家屋全壊362棟、半壊988棟、流失3棟、床上浸水91棟、床下浸水66棟、一部破損10,963棟、非住家被害2,470棟、田流失・埋没454ha、田冠水665ha、畑流失・埋没2ha、畑冠水124ha、道路損壊192カ所、橋梁流失34カ所、鉄軌道被害8カ所、通信施設被害864回線、木材流失1,510m ³ 等に及んだ。	期間降水量(14日09時～17日09時) 山上ヶ岳 642.0mm 前鬼 586.0mm 日出岳 531.0mm 寺垣内 79.0mm 河合 470.0mm 十津川 442.0mm 洞川 385.0mm 川上 346.0mm 荒神岳 299.0mm 高見 286.0mm 七面山 276.0mm 曾爾 270.0mm 南之庄 174.0mm 榛原 154.0mm 大淀 146.0mm 五條 125.0mm 尾山 89.0mm 八木 65.0mm 奈良 43.0mm 日最大風速(16日13時50分) 奈良 SSE 25.0m/s 日最大瞬間風速(16日13時41分) 奈良 SSE 42.4m/s

発生年月日	災害名	異常気象名 (主要要因)	被害概要	参考値
昭和36年10月26日～ 10月28日	水害	大雨 《閉塞前線、南岸低気圧、台風第26号》	26日から28日にかけて、台風が小笠原諸島を北上し三陸沖に達した。一方、26日03時に屋久島付近で低気圧が発生して北東に進み、27日朝には山陰中部に達し閉塞状態となった。また、27日21時ごろに紀伊半島沖で新たに低気圧が発生して、ゆっくり南東に進んだ。このため、県南東部を中心に大雨となった。県内の主な被害は、死者1名、負傷者1名、家屋全壊3棟、半壊2棟、一部破損12棟、非住家被害4棟、床上浸水17棟、床下浸水628棟、田流失・埋没31ha、田冠水771ha、畑冠水2ha、道路損壊89カ所、橋梁流失24カ所、堤防決壊6カ所、山・崖崩れ76カ所、通信施設被害3回線等となっている。	期間降水量(26日09時～29日09時) 日出岳 1241.0mm 川上 673.0mm 十津川 655.0mm 山上ヶ岳 649.0mm 河合 581.0mm 寺垣内 556.0mm 高見 526.0mm 洞川 478.0mm 前鬼 433.0mm 曾爾 391.0mm 南之庄 350.0mm 五條 175.0mm 奈良 176.0mm
昭和40年9月8日～ 9月10日	暴風雨害	強風・大雨 《台風第23号》	この台風は、10日08時に高知県安芸市付近に上陸し、兵庫県を経て日本海へ去った。県内各地で、特に風による被害が多かった。県内の主な被害は、死者1名、負傷者2名、家屋全壊3棟、床下浸水7棟、道路損壊6カ所、橋梁損壊3カ所、山・崖崩れ2カ所等となっている。	期間降水量(8日09時～11日09時) 日出岳 390.0mm 五條 84.0mm 奈良 62.0mm 日最大風速(10日11時50分) 奈良 S 20.0m/s 日最高瞬間風速(10日11時34分) 奈良 S 27.6m/s
昭和41年6月30日～ 7月2日	水害	大雨 《停滞前線、低気圧》	発達した低気圧が、1日夜から2日朝にかけて瀬戸内海沿いを東進した。このため、西日本付近の梅雨前線の活動が活発となり、大雨により主に大和川水系の各河川が増水した。県内の主な被害は、死者2名、住家一部破損1棟、非住家被害13棟、床上浸水26棟、床下浸水658棟、山・崖崩れ16カ所、道路損壊14カ所橋梁流失4カ所、鉄軌道被害1カ所、農業被害3,945ha等となっている。	期間降水量(30日09時～3日09時) 北今西 230.0mm 荒神岳 136.0mm 王寺 132.0mm 大和新庄 121.0mm 二津野 121.10五條 102.0mm 尾山106.0mm 奈良 120.0mm
昭和41年8月26日	落雷等	雷 《雷雨(熱雷)、寒気の移流》	26日は、太平洋高気圧に覆われ日射が強く、上層に寒気が移流して大気不安定となった。このため県西部を中心に発雷し、五條市では落雷により2名死亡した。	日最高気温(26日09時～27日09時) 五條 34.1℃ 期間降水量(26日09時～27日09時) 五條 25.0mm
昭和42年4月上・中	長雨害、 山・崖崩れ	長雨 《停滞前線》	4月の上旬・中旬は、前線が南岸沿いに停滞し、その前線上を時々低気圧が東進するなど、長期にわたって雨が降った。この長雨のため県内各地で崖崩れ(12カ所)が発生した。とくに13日朝、上北山村で崖崩れがあり、1戸が全壊して死者が1名となった。そのほか、4戸が半壊した。また、農業被害としては、毎にカビ病が発生した。	期間降水量(1日09時～21日09時) 寺垣内 388.0mm 二津野 329.0mm 白川 322.0mm 池原 320.0mm 十津川 290.0mm 五條 193.0mm 奈良 189.0mm
昭和44年7月4日～ 7月5日	水害	大雨 《停滞前線、低気圧》	4日から5日にかけて、本州付近に停滞する梅雨前線を次々と小さな低気圧が東進し、死者1名(十津川村で落石による)、家屋一部破損1棟、床下浸水77棟、田冠水8ha、山・崖崩れ45カ所、道路損壊50カ所、鉄軌道被害1カ所等であった。	期間降水量(4日09時～6日09時) 小坪瀬 320.0mm 伯母子岳 226.0mm 玉置山 217.0mm 十津川 208.0mm 八木 77.0mm 奈良 72.0mm
昭和45年7月4日～ 7月5日	水害、強風害	大雨、強風 《台風第2号》	台風は、5日昼前には四国の室戸岬沖を通過し、5日18時過ぎに白浜と潮岬間の紀伊半島に上陸、次第に衰えながら進路を北から北西方向に転じ、和歌山市付近から姫路市付近をへ得て兵庫県北西部から日本海へ抜けた。このため十津川村では作業員宿舎が倒壊して、死者1名が出たのをはじめ、県全域で、家屋全壊1棟、半壊4棟、一部破損8棟、非住家被害30棟、道路損壊7カ所、山・崖崩れ9ヶ所、通信施設被害1,810回線、また農作物被害や強風による果樹被害、倒木(奈良公園他)も発生した。	期間降水量(4日09時～6日09時) 薬師平 557.0mm 日出岳 545.0mm 竹の平 533.0mm 寺垣内 426.0mm 十津川 285.0mm 八木 25.0mm 奈良 39.0mm 日最大風速 奈良 ENE 17.0m/s 日最大瞬間風速 奈良 ENE 34.2m/s
昭和45年8月30日	落雷害	雷 《雷雨(熱雷)、台風第11号》	30日は、太平洋高気圧に覆われ晴れて気温が上昇した。また、朝鮮半島付近に台風があって西日本は大気の状態が不安定となり、午後になって県内各地で雷雨や雷雨があった。このため、富麻町では落雷により1名が死亡した。	期間降水量(30日09時～31日09時) 大和新庄 31.0mm 日最高気温(30日09時～31日09時) 大和新庄 35.3℃

発生年月日	災害名	異常気象名 (主な要因)	被害概要	参考値
昭和46年9月26日	水害	大雨 《台風第29号》	この台風は、26日13時頃に和歌山県白浜町と潮岬の間に上陸した後、紀伊半島の東岸沿いに進んだ。大雨による被害は県全域に及んだが、特に大宇陀、東吉野、十津川の山間部に集中した。県内の主な被害は、死者3名、行方不明8名、負傷者4名、家屋全壊3棟、半壊2棟、流失1棟、床上浸水69棟、床下浸水1,211棟、一部損失1棟、非住家損壊2棟、田流失・埋没2ha、田冠水47ha、畑流失・埋没1ha、畑冠水15ha、山・崖崩れ116ヶ所、道路損壊90ヶ所、堤防決壊17ヶ所、橋梁流失11ヶ所、鉄軌道被害2ヶ所等に上った。	期間降水量(26日09時～27日09時) 洞川217.0mm 風屋206.0mm 曾爾200.0mm 高見 195.0mm 大宇陀 110.0mm 八木 105.0mm 奈良 86.0mm 日最大風速(26日14時10分) 奈良NNW 9.8m/s 日最大瞬間風速(26日14時30分) 奈良NNW 15.8m/s
昭和47年7月9日～ 7月14日	水害	大雨 (停滞前線、南岸低気圧、日本海低気圧)	9日～14日にかけて、西日本付近に停滞する梅雨前線を弱い低気圧が次々と通過して、梅雨前線が南下・北上を繰り返した。このため、県全域で大雨となり、各地で水害が発生した。県内の主な被害は、死者1名、負傷者3名、家屋全壊1棟、半壊4棟、一部破損9棟、非住家被害2棟、床上浸水47棟、床下浸水544棟、田冠水411ha、畑冠水63ha、山・崖崩れ70ヶ所、道路損壊91ヶ所、堤防決壊16ヶ所、鉄軌道被害3ヶ所等に及んだ。	期間降水量(9日09時～15日09時) 三浦峠 457.0mm 小坪瀬 404.0mm 前鬼 381.0mm 風屋 348.0mm 生駒 299.0mm 荒神岳 297.0mm 王寺 217.0mm 八木 183.0mm 奈良 266.0mm
昭和50年9月23日	落雷害	雷 (熱雷、界雷) 《停滞前線》	オホーツク海にある発達した低気圧から伸びる寒冷前線が、関東地方から西に延びて停滞した。このため、大気が不安定な状態となり、天理市にあるゴルフ場で落雷により死者1名、負傷者1名の被害があった。	期間降水量(23日00時～24時) 奈良 31.5mm 日最高気温(23日12時00分) 奈良 29.8℃
昭和54年6月27日～ 6月30日	水害	大雨 《停滞前線》	日本海に停滞していた梅雨前線が南下して、西日本付近で活動が活発になり、大雨が降った。このため、特に県北部を中心に水害が発生し、死者1名、家屋全壊2棟、半壊5棟、床上浸水17棟、床下浸水2,670棟、道路損壊268ヶ所、河川損壊348棟、橋梁損壊2ヶ所、鉄軌道被害1ヶ所等の被害があった。また、農林業被害は県全域で9億7,620万円に上った。	期間降水量(27日00時～30日24時) 針 303.0mm 田原本 264.0mm 荒神岳 244.0mm 風屋 244.0mm 上野地 239.0mm 大宇陀 226.0mm 五條 235.0mm 奈良 292.0mm
昭和57年7月31日～ 8月3日	水害	大雨 《台風第10号、停滞前線、南岸低気圧》	台風第10号は、7月24日03時マージナル諸島付近で台風となり、8月2日00時に渥美半島西部に上陸して、2日05時頃には能登半島から日本海へ抜けた。一方、台風第9号が中国大陸で温帯低気圧に変わり、2日夜には九州南岸を経て3日昼頃に紀伊半島を通過した。このため、7月31日夜半から台風全面の停滞前線も活発化して、大雨に続く大雨で地盤が緩み、県全域で被害が拡大した。県内の主な被害は、死者10名、負傷者12名、家屋全壊24棟、半壊・一部破壊34棟、床上浸水5,573棟、床下浸水5,084棟、耕地流失・埋没10.4ha、耕地冠水894ha、道路損壊88ヶ所、橋梁損壊5ヶ所、鉄軌道被害15ヶ所、山・崖崩れ528ヶ所、堤防決壊2ヶ所、通信施設被害942回線、木材流失18m ³ に及んだ。また、農業被害43億1,500万円、水業被害5,800万円、林業被害4億5,700万円に上った。	期間降水量(7月31日00時～8月3日24時) 日出岳 1078.0mm 上北山 736mm 高見 620.0mm 山上ヶ岳 505.0mm 曾爾422.0mm 玉置山 428.0mm 大宇陀 415.0mm 針 412.0mm 当麻 414.0mm 壺阪 382.0mm 五條 368.0mm 田原本 349.0mm 奈良 342.0mm 日最大風速(2日03時30分) 奈良 S 6.7m/s 日最大瞬間風速(2日01時30分) 奈良 W 16.0m/s
昭和58年9月7日	落雷害	雷 (界雷、熱雷) 《寒冷前線》	日本海中部を低気圧が東進し、この低気圧から延びる寒冷前線が奈良県を通過して、所々で雷雨が発生した。15時15分頃、奈良市の高畑町の大学のグラウンドに落雷があり、練習中のラグビー部員が1名死亡、1名重体の被害があった。	日最大1時間降水量(7日16時20分) 奈良 26.0mm 日最高気温(7日16時20分) 奈良 30.3℃
平成8年4月1日～ 4月22日	凍霜害	霜	4月上旬の奈良の平均気温は8.0℃で平年より3℃低く、五條市では上旬の平均気温が7.5℃で平均に比べ3.8℃低くなった。この影響により、柿の産地である五條市や西吉野村では凍霜害が発生し、吉野地区では栽培樹木面積の約30%(約90ha)、五條市野原・生子・下之地区では水田から転作した地域では約100%の被害が出た。	・日最低気温 4日 5時51分 奈良-1.1℃ 13日 5時 大宇陀-3.9℃

発生年月日	災害名	異常気象名 (主な要因)	被害概要	参考値
平成9年7月25日～ 7月31日	大雨害 強雨害 強風害	台風第9号	25日に四国の南海上をゆっくり北上。26日17時過ぎに中型で強い勢力を保ち徳島県阿南市付近に上陸。27日1時すぎに出雲市付近から日本海に抜け停滞。 28日6時45分に弱い熱帯低気圧に変わった後、東南東進して東海沖で停滞。南部を中心に大雨続く。 住家被害3棟、非住家被害2棟、床下浸水1棟、山・崖崩れ3ヶ所、道路損壊2ヶ所。	・総降水量 日出色 995mm、上北山801mm、山上ヶ岳593mm、風屋559mm ・日最大降水量(26日) 日出色 734mm、上北山627mm、山上ヶ岳450mm、風屋436mm ・1時間最大降水量 26日14時 日出色 53mm 26日10時 上北山 45mm 26日15時 高見 42mm 26日12時 曾爾 41mm ・最大瞬間風速 26日14時4分 奈良23.5m/s
平成10年8月23日	大雨害 落雷害	暖気の移流 雷雨(熱雷) 日本海低気圧	23日は、太平洋高気圧の圏内となって晴れて気温が上昇したが、前線を伴った低気圧が朝鮮半島北部へ進んできて、この低気圧に向かい南海上から暖湿気が流入して大気が不安定となった。 このため、夕方頃に積乱雲が急速に発達して、県北部を中心に雷を伴う短時間強雨となった。 被害状況は 床上浸水6棟、床下浸水28棟、停電2,300軒。	・日最大降水量(23日) 田原本 73mm、天辻 43mm、奈良30mm、大宇陀26mm、吉野24mm、當麻 21mm ・日最大1時間降水量 23日18時 田原本 62mm 23日17時 天辻 28mm 23日17時30分 奈良 27.5mm 23日17時 大宇陀 17mm 23日18時 当麻 13mm 23日16時 吉野 9mm ・日最高気温 23日14時 五條35.1℃ 23日13時30分 奈良33.2℃ 23日14時 大宇陀31.9℃
平成10年9月22日	強風害 大雨害	台風第7号	17日21時フィリピンのルソン島の西の海上で発生した台風第7号が、22日に四国の南海上を北上して、同日13時過ぎに中型で強い勢力を保ち、和歌山県北部(御坊市付近)に上陸した。 上陸後、台風は次第に速度を速めながら、北北東進し、14時に大阪市の南約30kmの地点、15時に彦根市の南西約30kmの地点、18時に富山市付近を経て日本海に抜けた。 この台風により、奈良地方気象台では統計開始(1953年5月)以来第3位(37.6m/s)の日最大瞬間風速を記録した。 被害状況は、死者2人、負傷者87人、非住家被害1,803棟、住家全壊52棟、住家一部損壊9,979棟、床上浸水1棟、床下浸水36棟、道路損壊68ヶ所、橋梁流失3ヶ所、山・崖崩れ77ヶ所。農業関係は、農作物135億6,800万円、生産関係施設43億3,800万円、農地・農業施設2億4,000万円、畜産10億4,300万円。林業関係は、林道被害も合わせると61億円。	・日最大瞬間風速 22日15時33分 奈良37.6m/sw ・日最大風速 22日15時 大宇陀 16m/s SW 22日15時 奈良 13.1m/s SSW 22日15時 五條 13m/s SW 22日15時 針 12m/s S 22日14時 風屋 12m/s S 22日14時 上北山 6m/s NNW ・日最大降水量 22日 風屋 151mm 22日 上北山 145mm 22日 玉置山 138mm 22日 山上ヶ岳 124mm 21日 曾爾97mm 22日 吉野84mm ・日最大1時間降水量 22日13時 上北山 40mm 22日13時 山上ヶ岳 35mm 22日13時 風屋 31mm 22日16時 奈良 27mm
平成11年8月9日～ 8月11日	浸水害 山がけ崩れ害	熱低(台風以外) 暖気の移流	熱帯低気圧が、9日は伊豆諸島付近を北上し、10日には東海沖を西進して伊豆半島に進み、11日は近畿地方をゆっくりと北上した。特に、11日の明け方頃は、熱帯低気圧の北上に伴い、南海上から暖かく湿った空気が流入し、県北部を中心に雷を伴う短時間強雨となった。 県北部で、床上浸水12棟・床下浸水52棟・山がけ崩れ2ヶ所・鉄軌道被害1ヶ所・通行止め11路線13区間等の被害があった。	・日最大1時間降水量 11日4時 五條 38mm 11日5時 奈良 26mm 11日3時 吉野 25mm 11日5時 大宇陀 24mm 11日5時 田原本 19mm 11日8時 針 18mm 11日2時 当麻 15mm ・期間降水量 奈良149.5mm、針134mm、大宇陀123mm、五條140mm、吉野124mm、田原本110mm
平成11年9月21日	洪水害 浸水害 落雷害 強雨害	雷(熱雷を除く) 台風第18号 停滞前線	21日は、宮古島付近を北東進する台風第18号の影響で、南海上から暖かく湿った空気が流入し、西日本付近に停滞する秋雨前線の活動が活発化した。特に、昼過ぎから夕方にかけては、県北部を中心に雷を伴う短時間強雨となり、奈良地方気象台では1時間降水量の最大75mmを観測した。これは、観測開始(1953年5月)以来の、最大値更新となった。 県北部で、河川損壊1ヶ所・床上浸水139戸・床下浸水210戸・車両水没30台等の被害があった。	・日最大1時間降水量 21日14時50分 奈良 75mm 21日14時 田原本 29mm ・日降水量 奈良82mm、五條26mm、田原本43mm、針22mm
平成12年5月13日	浸水害 強雨害 落雷害	雷雨(熱雷) その他(低気圧) 寒気の移流	5月13日は、寒気を伴った低気圧が黄海から九州付近へゆっくりと近づき、西日本の上空約5500m付近には-18℃以下の、この時期としては強い寒気が流入した。また、奈良県では、昼過ぎから一時日が射して、気温が上昇した。このため、大気の状態が不安定となって、奈良市付近では夕方から宵の内にかけて雷・ひょうを伴う短時間強雨となり、奈良地方気象台で日最大1時間降水量79mmを観測した。これは、観測開始以来の最大値更新となった。 奈良市で、床上浸水5棟・床下浸水109棟の被害があった。	・日最大1時間降水量 13日18時48分 奈良 79mm 13日18時 五條 10mm 13日21時 針 10mm ・日降水量 奈良84.5mm、五條11mm、大宇陀3mm、針18mm、曾爾3mm ・日最高気温 13日15時11分 奈良 26℃ 13日16時 五條 25.4℃ 13日15時 上北山 23.7℃ 13日14時 大宇陀 23.5℃ 13日15時 風屋 23.4℃ 13日16時 針 21.2℃

発生年月日	災害名	異常気象名 (主要要因)	被害概要	参考値
平成12年7月4日	洪水害 浸水害 強雨害 落雷害 ひょう(あられ)害	雷雨(熱雷) 気圧の谷(500hPa) 寒気の移流	7月4日は、高気圧の圏内で薄雲が広がっていたが、屋過ぎまでは晴れて、気温が上昇した。一方、西日本の上空約5800m付近(500hPa)には、気圧の谷の通過と-10℃以下のこの時期としては強い寒気が流入した。このため、次第に大気の状態が不安定となり、夕方から宵の内にかけて、県北部を中心に雷・ひょうを伴う短時間強雨となり、奈良地方気象台で日最大1時間降水量37mmを観測した。 奈良県北部で、床上浸水188棟、床下浸水1,212棟、道路損壊29ヶ所、河川損壊20ヶ所、山がけ崩れ3ヶ所、鉄道不通1ヶ所、電話不通2,900世帯、建物被害2ヶ所、橋梁損壊1ヶ所、田冠水6.5ha、畑冠水2ha等の被害があった。	・日最大1時間降水量 4日18時 針 51mm 4日13時 上北山 37mm 4日19時6分 奈良 37mm 4日17時 大宇陀 5mm ・日降水量 針80mm、奈良42.5mm、大宇陀8mm、上北山43mm、日出岳12mm、天辻4mm ・日最高気温 4日14時 五條 34.3℃ 4日13時4分 奈良 33.2℃
平成13年8月20日～ 8月22日	強風害 浸水害 山がけ崩れ害	台風第11号	平成13年8月14日21時、フィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧が北東へ進み、マリアナ諸島の北の海上で台風11号となった。台風は、発達しながら日本の南海上を北西に進み、21日3時には四国の南海上から北東へ向きを変え、勢力を弱めながら、同日19時過ぎに和歌山県南部の串本町付近に上陸した。また、台風は上陸後、比較的遅い速度で東北東へ進み、22日2時頃に三重県中部から海上に出た後、日本の南岸沿いを進み、23日9時に北海道で温帯低気圧となった。 8月22日16時現在の集計では奈良県全域で、軽傷2名、住家一部損壊6棟、床下浸水1棟、堤防破損1ヶ所、山がけ崩れ2ヶ所、道路損壊11ヶ所、道路通行止め36ヶ所、停電12,730戸等の被害があった。また、22日12時現在の集計では、農作物被害8,413万円、農地・農業用施設被害8,540万円、畜産関係被害1,000万円等となった。	・日最大風速 21日20時 五條 10m/s N 21日11時30分 奈良 7.3m/s NE 21日13時 上北山 4m/sNNE ・日最大瞬間風速 20日19時27分 奈良 23.1m/s E ・日最大1時間降水量 21日10時 日出岳 56mm 21日11時 上北山 56mm 22日1時36分 奈良 11mm ・期間降水量 日出岳932mm、風屋403mm、上北山617mm、奈良82mm
平成15年8月7日～ 8月9日	強風害 浸水害 山がけ崩れ害 強雨害	台風第10号	8月3日15時にフィリピンの東海上で発生した台風第10号は強い勢力を保ちながら、8日朝には九州の東海上を北東進んで、同日21時30分頃、高知県室戸市に上陸した。その後、北北東進んで9日3時には西宮市に再上陸した。その後、加速しながら近畿地方を北東に進み、同日12時には金沢市付近を通過し、東北地方を経て、10日6時に北海道の千島近海で温帯低気圧となった。 この台風の影響で、奈良県では8日午後から9日の朝にかけて風雨が強まり、奈良で9日7時14分に南の風20.5m/sの最大瞬間風速を記録した。また、県南部の日出岳・上北山・山上ヶ岳では降り始めからの総降水量が400mmを超えた。 奈良県では、この台風による強風や大雨により、県下で住家の一部破損3棟、床下浸水1棟、非住家の被害3棟、山がけ崩れ4ヶ所、道路の損壊9ヶ所などの被害が発生した。また、農業関係の被害状況は、強風のためビニールハウスが崩壊して、ハウレンソウが20.5haで4,812万円の大きな被害が発生した。この台風による農作物や農業用施設などに1億4,000万円、林業関係では林道20路線33ヶ所で路肩崩壊により1億5,000万円の被害となった。	・総降水量 7日16時～9日24時 78.5mm ・日降水量 9日 44mm ・日最大1時間降水量 9日5時28分～6時28分 19mm ・日最大風速 9日7時10分 8.5m/s S ・日最大瞬間風速 9日7時14分 20.5m/s S
平成16年5月13日	浸水害 強雨害 山がけ崩れ害	暖気の移流 寒冷前線	前線を伴った低気圧が日本海を東北東に進み、低気圧から延びる寒冷前線が夕方から夜遅くにかけて奈良県をゆっくりと通過した影響で、低気圧や前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、北部の一部で夕方から宵の内にかけて短時間強雨となった。 この大雨により、山がけ崩れ8件が発生し、床下浸水102棟の被害が出た。	・期間降水量 13日 奈良 77mm ・日最大降水量 奈良 77mm、針77mm ・日最大1時間降水量 13日18時11分まで 奈良 44.5mm
平成16年8月4日～ 8月5日	強風害 浸水害 強雨害 山がけ崩れ害	台風第11号	平成16年8月4日12時に潮岬の南海上で発生した台風第11号は北西に進み、同日22時半頃徳島県阿南市付近に上陸した。さらに北上を続け、5日1時頃、兵庫県相生市付近に再上陸した。その後、日本海を北上し、同日6時に熱帯低気圧に変わった。この台風の影響で、奈良県では、4日夕方から5日昼前にかけて県南部を中心に猛烈な雨となった。 この台風による大雨で下北山村と室生村で民家2棟が土砂崩れなどにより一部破損したのをはじめ、上北山村や御杖村などで床下浸水9棟、県内で合わせて3,630戸の停電被害が発生した。農業関係の被害状況は、大雨による冠水のためハウレンソウに7.2ha(被害総額約3,140万円)、農地や農業施設で1億5千万円の被害が出た。林業関係では、上北山村と下北山村を中心に林道被害が44路線(103ヶ所、被害総額2億7千万円)、上北山村と下北山村を中心に曾爾村・御杖村・東吉野村などで林地被害48ヶ所(被害額約27億2,700万円)の甚大な被害となった。	・期間降水量 4日～5日 奈良 35mm 上北山734mm ・日最大降水量 5日 奈良28.5mm、上北山540mm ・日最大1時間降水量 5日2時8分まで 奈良 11.5mm 5日7時40分まで 上北山 81mm

発生年月日	災害名	異常気象名 (主な要因)	被害概要	参考値
平成17年12月22日	積雪害 その他(雪害)	寒気の移流 大陸高気圧	12月22日、強い冬型の気圧配置となった影響で、県内の所々で積雪となった。この雪の影響で、転倒や交通事故により奈良市で負傷者12名をはじめ、県内で負傷者18名が出た。また、奈良市の一部や生駒市、平群町の計約9万1千世帯が一時停電した。	・積雪 奈良市 3cm
平成18年8月22日	強雨害 浸水害 落雷害	雷雨(熱雷を除く) 寒気の移流	台風第10号から変わった熱帯低気圧が日本海を北東進した影響で、日本海に非常に暖かく湿った空気が入り込んでいた。また、上空には弱い寒気があり、大気の状態が不安定となっていた。奈良県では22日の朝のうちからよく晴れて気温も上昇し更に大気の状態が不安定となった。そのような状況の中、北陸から中国地方にかけて線状の発達した雨雲がゆっくり南下した影響で、昼過ぎから宵のうちにかけて県北西部を中心に雷を伴った短時間強雨となった。この大雨により、桜井市三輪などで床上浸水12棟、床下浸水180世帯の被害が発生し、天理市柳本町で19棟が床下浸水するなどの被害が発生した。	・期間降水量 22日 大宇陀41mm ・日最大降水量 大宇陀41mm ・日最大1時間降水量 22日14時40分まで 大宇陀37mm ・日最高気温・平年差 22日13時38分 奈良35.2℃(+2.8℃)
平成19年7月17日	浸水害 山がけ崩れ害 強雨害	暖気の移流その他 (低気圧)	日本海には低気圧があり、近畿地方ではその前面で大気の状態が不安定となり、16日から17日にかけて奈良県北西部を中心に大雨となった。奈良県北部の広い範囲で、浸水被害が発生した。奈良県では平成12年以來の1000棟規模(床上浸水97棟、床下浸水967棟)の浸水被害となった。また、北西部を中心にがけ崩れや道路冠水等が発生した。	・期間降水量 16日～17日 奈良 53.5mm 葛城 129mm ・日最大降水量 16日 奈良33mm 17日 葛城73mm ・日最大1時間降水量 16日0時13分まで 奈良22.5mm 17日1時20分まで 葛城50mm
平成20年7月8日	浸水害 山崩れ害	雷雨 気圧の谷 寒気移流	上空に寒気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、激しい雷雨が発生した。雷雨により1時間50～110mm(解析雨量)の強雨があり、住宅の浸水(床上浸水1棟、床下浸水97棟)と道路冠水10ヶ所及び崖崩れ5ヶ所の被害が発生する。落雷によるとみられる停電が最大で約2,900戸であった。	・期間降水量 奈良17mm、田原本51mm ・日最大降水量 奈良17mm、田原本51mm ・日最大1時間降水量 8日8時58分まで 奈良 10mm 8日9時37分まで 大宇陀 22.5mm
平成21年8月10日～ 8月11日	山がけ崩れ害 浸水害	台風第9号	台風第9号が10日午後から11日午前中にかけて紀伊半島沖を北東に進んだため、大雨となった。床上浸水5棟、床下浸水125棟の被害が発生した。	・期間降水量 10日～11日 奈良18.5mm 日出岳182mm ・日最大降水量 10日 日出岳136.5mm ・日最大1時間降水量 10日12時36分まで 風屋62mm
平成21年10月5日～ 10月8日	浸水害 強風害 洪水害 山がけ崩れ害	台風第18号 停滞前線	西日本の南岸には前線が停滞し、また、7日から8日にかけて、台風第18号が紀伊半島の南岸に沿って進んだため、県内各地で強風を伴った大雨が降った。これらの影響で次のような被害が発生した。床上浸水3棟、床下浸水26棟、倉庫浸水1棟、家屋損壊7軒、非住家損壊2軒。道路破損:名阪国道・明日香村道法面崩落、土砂流出17ヶ所、崩土11ヶ所、陥没1ヶ所、冠水5ヶ所。橋梁流出:東吉野村の村道国庫小川線小池内。がけ崩れ24ヶ所。農業被害:農作物など1,101.63ha。文化財被害:11件(法隆寺五重塔相輪の風鐸の舌が1個落下など)	・最大瞬間風向・風速 8日1時37分 奈良 北北東19.4m/s 8日5時13分 五條 北西25m/s ・期間降水量・平年比 5日～8日 奈良123mm(687%) 日出岳374mm ・日最大降水量 7日 奈良 55.5mm 日出岳 204mm ・日最大1時間降水量 8日3時44分まで 曾爾57.5mm
平成22年7月13日～ 7月15日	山がけ崩れ害 その他(雨害)	梅雨前線 暖気の移流	山陰沖で停滞する梅雨前線に向かって、南から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、雨が断続的に降り続いた。奈良市中町でがけ崩れが発生し住家に土砂が流入、住民1名が軽傷を負い、建物の一部が損壊した。また、三郷町の山間部で崩土、五條市で小学校のグラウンドの一部が法面崩落、桜井市では民家や神社の裏山各1ヶ所で崩土、市道の路肩崩壊が3ヶ所、奈良市の民家の裏で崩土1ヶ所が発生し、大淀町で山の法面や民家の裏山等で崩土4ヶ所、11時ごろには倒木で高圧線が断線し、約70軒が停電した。	・期間降水量 13日～15日 奈良 120.5mm 玉置山 148.5mm ・日最大降水量 14日 奈良 87.5mm ・日最大1時間降水量 14日4時39分まで 奈良 32.5mm

発生年月日	災害名	異常気象名 (主要要因)	被害概要	参考値
平成23年8月30日 ～9月5日	山がけ崩れ害 (深層崩壊含む) 河道閉塞による水害 その他(雨害)	台風第12号	台風第12号が発達しながらゆっくりと北上し、8月30日には中心気圧965hPa、最大風速35m/sの大型で強い台風となった。この台風は大型で動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が紀伊半島に流れ込み、山沿いを中心に広い範囲で過去に例のない記録的な大雨をもたらした。 県内の主な被害は、死者15名、行方不明者9名、重傷者5名、全壊49棟、半壊71棟など。 また、「深層崩壊」と考えられる大規模な斜面崩壊が多数発生した。 この台風による災害は「国・三県(奈良県・三重県・和歌山県)合同対策会議」において「紀伊半島大水害」を統一の名称として使用していくことが三県より提案され、現在、この名称が広く使用されている。	期間降水量 8月30日～9月5日 上北山 1,808mm (年間平均2,713mm) 風屋 1,358mm (年間平均2,314mm) 大台ヶ原(国道交通省設置雨量計) 2,436mm
平成24年6月21日 ～6月22日	浸水害 山がけ崩れ害	大雨(梅雨前線)	西日本の南海上にある梅雨前線が西日本南岸まで南下し、梅雨前線を低気圧が東進したことにより、奈良県では21日朝から雨が降り始め、22日未明を中心に大雨となり、22日朝まで雨が続いた。 斑鳩町の男性が避難の際に自宅で転倒し救急搬送。足の骨を折るだけ。 大和高田市で22日未明に住家の床下浸水25棟。安堵町で住家の床下浸水1棟。	日最大降水量 21日 奈良 74.5mm 21日 風屋 97.5mm 最大1時間降水量 22日2時8分まで 奈良 22.5mm 22日5時51分まで 葛城 28.0mm
平成24年9月30日	浸水害 山がけ崩れ害 強風害	台風第17号	台風第17号が四国沖から潮岬付近を通過し北東進した。奈良県では台風接近に伴い9月30日午後を中心に断続的に雨が降り続いた。降り始めの9月29日12時から30日24時までの総雨量は、奈良県上北山村上北山で257.0ミリを観測する大雨となった。 法隆寺では、五重塔(国宝)の装飾具の青銅製部品「舌」1個が落下、また築地塀が「東院大垣」「西院大垣」は計3か所が最大幅3.6m高さ45cmにわたりはがれ落ちた。五條市では、国指定天然記念物「二見の大ムク」(樹高約30m)の枝(長さ10m)が根元から折れた。	日最大瞬間風速 30日 15時9分 奈良13.1m/s NNE 30日 15時37分 五條20.6m/s N 日最大降水量 30日 奈良 97.5mm 30日 上北山 257.0mm 1時間降水量 30日16時17分まで 奈良 31mm 30日16時5分まで 上北山 51.5mm
平成25年6月25日～ 6月26日	浸水害 山がけ崩れ害	大雨(前線停滞)	西日本に梅雨前線が停滞し、前線の低気圧が発達しながら近畿地方を通過した。そのため、奈良県では25日夜遅くから雨が降り、26日日中を中心に大雨となった。 大和高田市で床下浸水2棟、床下浸水42棟をはじめ、桜井市や葛城市でも浸水被害が発生。	日最大降水量 26日 奈良 90.0mm 26日 五條 111.5mm 最大1時間降水量 26日10時3分まで 奈良 16.0mm 26日11時19分まで 五條 36.0mm
平成25年8月5日	浸水害 山がけ崩れ害	大雨(暖気の移流)	暖かく湿った空気が流れ込んでおり、強い日射の影響で大気の状態が不安定となった。このため、雲が広がり局地的に雷を伴った非常に激しい雨が降った。アメダスでは、降り始めの8月5日12時から8月5日18時までに奈良市半田開町で58.0ミリ、曾爾で46.0ミリ、田原本で41.5ミリ、葛城市寺口で27.0ミリ、吉野で18.0ミリを観測した。また、奈良市半田開町では5日15時22分までの1時間に58.0ミリ(8月の観測史上1位)を観測した。	日最大降水量 5日 奈良 58.0mm 最大1時間降水量 5日15時22分まで 奈良58.0mm 最大10分間降水量 5日14時47分まで 奈良 27.0mm
平成25年9月15日～ 9月16日	浸水害 山がけ崩れ害	大雨(台風第18号)	小笠原近海で発生した台風第18号が大型の勢力を保ったまま北上した。この台風を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため、奈良県では大雨となった。アメダスでは、降り始めの9月14日22時から9月16日13時までに上北山で548.0ミリ、天川で534.5ミリ、曾爾で464.0ミリ、玉置山で395.5ミリ、風屋で369.0ミリの総雨量を観測した。また、吉野では15日の日降水量216.0ミリ(観測史上2位)を観測した。 (人的被害)重傷1名(明日香村)(崩土撤去作業中に骨折) (住家被害)一部損壊14棟、床上浸水19棟、床下浸水93棟	日最大降水量 15日 奈良 98.0mm 15日 上北山 542.5mm 最大1時間降水量 16日5時25分まで 奈良 35.0mm 15日22時22分まで 上北山64.0mm
平成26年8月9日～ 8月10日	強雨害 浸水害	台風第11号	7月29日にマリアナ諸島近海で発生した台風第11号は、フィリピンの東海上を発達しながら進み、強い勢力となって日本の南海上をゆっくりと北上した。8月10日6時過ぎに高知県安芸市付近に上陸し、その後も四国地方をゆっくり北北東に進み、10日10時過ぎに兵庫県赤穂市付近に再上陸、近畿地方を北北東進して10日14時前に日本海に抜けた。なお、奈良県には10日10時頃最接近した。アメダスでは、降り始めの8月8日15時から8月11日5時までに吉野郡上北山村上北山で548.0ミリ、吉野郡十津川村風屋で475.0ミリ、吉野郡十津川村玉置山で470.5ミリ、吉野郡下北山村下北山で456.5ミリ、吉野郡天川村天川で430.5ミリの総雨量を観測した。また、吉野郡吉野町吉野では9日の日降水量261.5ミリ(観測史上1位)を観測した。 (住家被害)一部破壊1棟、床上浸水2棟、床下浸水69棟	日最大降水量 9日 奈良 134.5mm 9日 吉野 261.5mm 最大1時間降水量 9日7時47分まで 奈良 27.5mm 9日12時27分まで 吉野 35.5mm

発生日月	災害名	異常気象名 (主要要因)	被害概要	参考値
平成26年10月5日～ 10月6日	強雨害 浸水害	台風第18号	9月29日15時にトラック諸島近海で発生した台風第18号は、発達しながら日本の南海上を北上し、大型で非常に強い勢力で南大東島の近海を通過して10月5日には九州の南海上に達した。台風は、その後、進路を東寄りに変え、大型で強い勢力を維持したまま潮岬の南を通過して、10月6日8時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸した。台風は速度を速めながら東海地方及び関東地方を北東に進み、6日21時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。台風と本州付近に停滞した前線の影響で、東日本太平洋側を中心に大雨となった。また、沖縄・奄美と西日本・東日本の太平洋側を中心に暴風となり、猛烈なしけとなった。 (人的被害)重傷1名(香芝市)(強風により転倒し骨折)	日最大降水量 6日 奈良 35.0mm 6日 十津川 102.5mm 最大1時間降水量 6日5時40分まで 奈良 9.5mm 6日3時52分まで 十津川 37.0mm
平成27年7月16日～7 月18日	強雨害 浸水害	台風第11号	7月4日にマーシャル諸島付近で発生した台風第11号は、太平洋上を発達しながら西へ進み、フィリピンの東で進路を北よりに変え、15日、大型で非常に強い勢力となった。16日、大型で強い勢力のまま日本の南をゆっくりと北上し、23時ごろに高知県室戸市付近に上陸した。その後、勢力は弱まったが四国地方をゆっくりと北上し、17日6時過ぎに岡山県倉敷市付近に再上陸した。中国地方を北上して、17日午後には日本海へ進んだ。大阪管内では、この台風を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため、四国地方や紀伊半島を中心に大雨となったほか、各地でこの台風による暴風が観測された。降り始めの7月15日13時から18日13時までの総雨量は、奈良県吉野郡上北山村上北山で745.5mmを観測するなど記録的な大雨となった。 (人的被害)軽傷1名(桜井市)(自転車での転倒で骨折) (住家被害)半壊1棟、一部破損1棟、床上浸水1棟、床下浸水1棟	日最大降水量 17日 奈良 30.0mm 16日 天川 269.0mm 最大1時間降水量 17日23時09分まで 奈良 8.5mm 16日19時06分まで 天川 38.5mm
平成27年7月19日	地すべり	台風第11号	(台風の概況は省略) 台風11号の大雨の影響により、天川村では坪内地区において幅約200m、長さ約400mの地すべりが発生した。これにより、天川村坪内地区の一部に避難勧告が発令された。 (住家被害)全壊1棟、半壊2棟、一部壊5棟	
平成29年9月12日	浸水害	大雨(前線停滞)	9月12日に低気圧が日本海を東北東に進み、この低気圧からのびる寒冷前線が12日昼頃奈良県を通過した。この前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。 奈良県では、12日朝、局地的に猛烈な雨が降り、07時までの1時間に田原本町付近で約120ミリ、広陵町付近で約110ミリ、07時10分までの1時間に天理市付近で約120ミリ、桜井市付近及び三宅町付近で約100ミリ、07時20分までの1時間に大和高田市付近、橿原市付近及び桜井市付近で約120ミリ、07時50分までの1時間に明日香村付近で約100ミリの雨を解析し、記録的短時間大雨情報を発表した。 (住家被害)床上浸水8棟 床下浸水110棟 (その他)道路冠水による車両浸水6箇所10台 (大和高田市、大和郡山市)	
平成29年 10月20日～ 10月23日	強雨害 浸水害	台風第21号	台風第21号は、日本の南の海上を北上し、超大型で強い勢力を保ったまま、23日03時頃に静岡県御前崎市付近に上陸した。大阪管内では、21日夜、四国地方から次第に強風域に入り、22日夜から23日明け方にかけて、近畿・四国地方では、暴風域に入った。 また、台風第21号の北上に伴い、本州南岸の前線の活動が活発となり、特に22日午後から23日明け方は台風の影響により、奈良県では暴風を伴った大雨となった。 20日12時から23日12時までの総降水量は、十津川村玉置山で556.5ミリ、五條三在町で324.5ミリを観測した。また、期間中の最大1時間降水量は、下北山村佐田で53.5ミリを観測した。風については、五條三在町で北の風22.2メートル(23日01時24分)の最大瞬間風速を観測した。 (人的被害)重傷1名(生駒市) (住家被害)全壊3棟(五條市、吉野町) 半壊4棟(下市町) 一部損壊46棟 床上浸水108棟 床下浸水390棟	

発生年月日	災害名	異常気象名 (主要要因)	被害概要	参考値
平成30年 7月5日～ 7月6日	強雨害	大雨(梅雨前線)	<p>北日本に停滞していた前線が7月5日には西日本まで南下してその後停滞した。7月5日から8日にかけて東北地方から西日本で15個の「線状降水帯」が形成され、うち9個は最大3時間積算降水量が150mmを超えた。この前線や、6月29日に発生した台風第7号の影響により、日本付近に暖かく非常に湿った空気が供給され続け、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨となった。6月28日から7月8日までの総降水量は四国地方で1,800mm、東海地方で1,200mmを超えるところがあるなど、7月の月降水量平年値の2～4倍の大雨であった。また、九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの観測地点で24、48、72時間降水量の値が観測史上第1位となり、広い範囲における長時間の記録的な大雨となった。この豪雨により、広島県、岡山県、愛媛県等で河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、死者237名、行方不明者8名の被害が発生した。</p> <p>(人的被害)死者1名(大和郡山市。田の様子を確認に行ったまま帰宅せず行方不明) (住家被害)床上浸水2棟 床下浸水26棟 一部損壊5棟</p>	
平成30年 9月4日～ 9月5日	強風害 強雨害 浸水害	台風第21号	<p>台風第21号は、速度を上げながら近畿地方を縦断した。日本の南海上から紀伊水道を北北東へ進み、非常に強い勢力で4日12時頃に徳島県南部に上陸した。その後も速度を上げながら大阪湾を北上し、4日14時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸し、4日16時頃には日本海に抜け、そのまま日本海を北上した。この台風の影響で、奈良県内は暴風を伴った大雨となった。</p> <p>この台風により、全国的に死者14名の人的被害がでたほか、強風や土砂崩れによる電柱の倒壊等により、関西電力管内で約170万戸が停電し復旧するまで約2週間を要したほか、大阪湾での記録的な高潮により関西国際空港が浸水し運用ができなかった。</p> <p>奈良県では、法隆寺金堂(国宝)の上層南西隅に取り付けられていた風鐸の舌部分(横32cm、縦19cm)が落下した。また五重塔(国宝)の相輪に吊り下げられた風鐸の舌部分(横7cm、縦11cm)2枚が落下した。春日大社本社板蔵(重要文化財)に隣接する樹木の枝が板蔵に落下し、屋根・軸廻りを破損させた。</p> <p>(人的被害)重傷2名(安堵町、田原本町。強風により転倒し骨折) 軽傷5名 (住家被害)半壊4棟 一部損壊140棟 床上浸水2棟 床下浸水2棟</p>	
令和4年 9月2日 ～9月3日	浸水害	大雨	<p>9月1日に日本海にあった前線が2日には西日本に南下し、3日には日本海に北上した。この前線に向かって、太平洋高気圧の縁を回って、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の不安定な状態が続いた。</p> <p>これにより、県北部の局部地域において強雨となった。</p> <p>(人的被害)行方不明1名(桜井市。田の様子を確認に行ったまま帰宅せず行方不明) (住家被害)床下浸水2棟</p>	